

# 令和7年度 普及指導活動のまとめ



青森県上北農林水産事務所

# 表紙の写真について

食育プロジェクトサツマイモ収穫

(令和7年10月2日)

ヤングファーマーゼミナール

視察研修

(令和7年9月5日)

ながいも新品種等成績検討会

(令和7年12月17日)

水稻育苗講習会

(令和7年4月16日)

## は し が き

令和7年の農作物生産を振り返ると、春先から気温が高めで推移し、夏場には記録的な高温と乾燥に見舞われるなど作物への影響が懸念されましたが、8月以降にまとまった降雨があり、台風等による大きな気象災害もなかったことから、水稻では、国の公表による「作況単収指数」が南部・下北で108の豊作傾向となりました。

また、にんにく、ながいも、ごぼうなどの上北地域の主力野菜も、比較的良好な作柄となり、販売価格も全般的に高値で取引されたところです。

本県農業を取り巻く環境は、担い手の減少や労働力不足、燃油・資材価格の高騰に加え、ここ数年の猛暑や干ばつ、集中豪雨など自然災害の多発など厳しい状況が続いています。

こうした中、当所では、「青森新時代『農林水産力』強化パッケージ」を踏まえ、普及指導計画に基づき、関係者が一体となって上北地域の農業生産力の強化に向けた取組を計画的に進めてきました。

具体的には、地域の経営体、農業協同組合、市町村等と連携しながら、ながいも・にんにく優良種苗供給体制の強化をはじめ、新規就農者や若手農業者の経営能力の向上、農山漁村地域を支える女性リーダーの育成、所得向上チャレンジプランによる経営改善への伴走支援、多様な人たちが携われるユニバーサル農業の推進等に取り組みました。

本冊子は、これらの取組や、地域の情勢、農業者の動向等を取りまとめたものです。御支援、御協力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、今後の参考となれば幸いです。

令和8年3月

青森県上北農林水産事務所長

種 市 順 司

# 目次

## ○ 上北農林水産事務所の組織体制及び農業普及振興室の班体制

### I 写真で見る今年度のトピックス

- |   |                                     |   |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 農福連携に関する新たな動き                       | 1 |
| 2 | ヤングファーマーゼミナール先進地視察・交流研修（農業士会との合同開催） | 1 |
| 3 | ながいも新品種等実証ほ成績検討会                    | 2 |
| 4 | 青森県農山漁村女性リーダー交流会                    | 2 |
| 5 | 農業DX推進に向けたトヨタ式カイゼン手法指導者育成           | 3 |
| 6 | 北三沢地区での乾田直播栽培への取組                   | 3 |

### II 認定

- |   |                |   |
|---|----------------|---|
| 1 | 農業経営士・青年農業士の認定 | 5 |
| 2 | V i C・ウーマンの認定  | 8 |

### III 普及指導活動の実績

- |     |                             |    |
|-----|-----------------------------|----|
| 1   | 令和7年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動     |    |
| (1) | 担い手育成と種苗増殖法の転換によるながいも産地力の強化 | 9  |
| (2) | 技術改善と基本技術の徹底による大豆の生産力強化     | 11 |
| (3) | 新規就農者の定着と経営管理能力の強化          | 12 |
| (4) | 水稻生育障害発生水田における主食用米安定生産      | 13 |
| 2   | 普及関連組織の活動状況                 |    |
| (1) | 農業士会                        | 14 |
| (2) | かみきたV i C・ウーマンの会            | 16 |
| (3) | かみきた農と暮らしの研究会               | 17 |
| (4) | とわだグリーン・ツーリズム研究会            | 18 |
| (5) | 農村青少年クラブ                    | 19 |
| 3   | 普及情報の発行・発信                  |    |
| (1) | かみきた楽農通信                    | 21 |
| (2) | 上北農業生産情報                    | 21 |
| (3) | インターネットサイトによる情報提供           | 21 |

## IV 令和7年度実施事業

### 1 農業普及振興室直営事業

(1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業	23
(2) 農山漁村女性の経営参画推進普及事業（国庫）	24
(3) 農山漁村女性の活躍応援事業（国庫）	25
(4) 青森県ユニバーサル農業推進事業（国庫・県単）	26
(5) あおもりの「食」を育む食育県民運動推進事業（国庫・県単）	27
(6) 放射性物質モニタリング調査（県単）	28
(7) 青森県特別栽培農産物認証制度（県単）	28
(8) 新規就農者定着推進事業（県単）	29
(9) 農業グローバル人材育成システム確立支援事業（国庫・県単）	30
(10) あおもり型農村RMO育成事業（県単）	31
(11) 指定種子検査事業（県単）	32

### 2 補助金・交付金事業

(1) 農地利用効率化等支援交付金（国庫）	34
(2) 鳥獣被害防止総合対策交付金（国庫）	34
(3) 農業委員会交付金等（国庫）	35
(4) 新規就農者育成総合対策事業（国庫）	36
(5) 環境保全型農業直接支払交付金（国庫）	37
(6) 経営所得安定対策等推進事業（国庫）	38
(7) 青森県所得向上プログラム実践支援事業（県単）	38
(8) 青森県県外人材雇用受入環境整備支援事業（県単）	39
(9) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単）	40

### 3 その他の事業

(1) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）（県単）	41
(2) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（にんにく所得対策）（県単）	42

## V 気象経過と農作物の生育状況

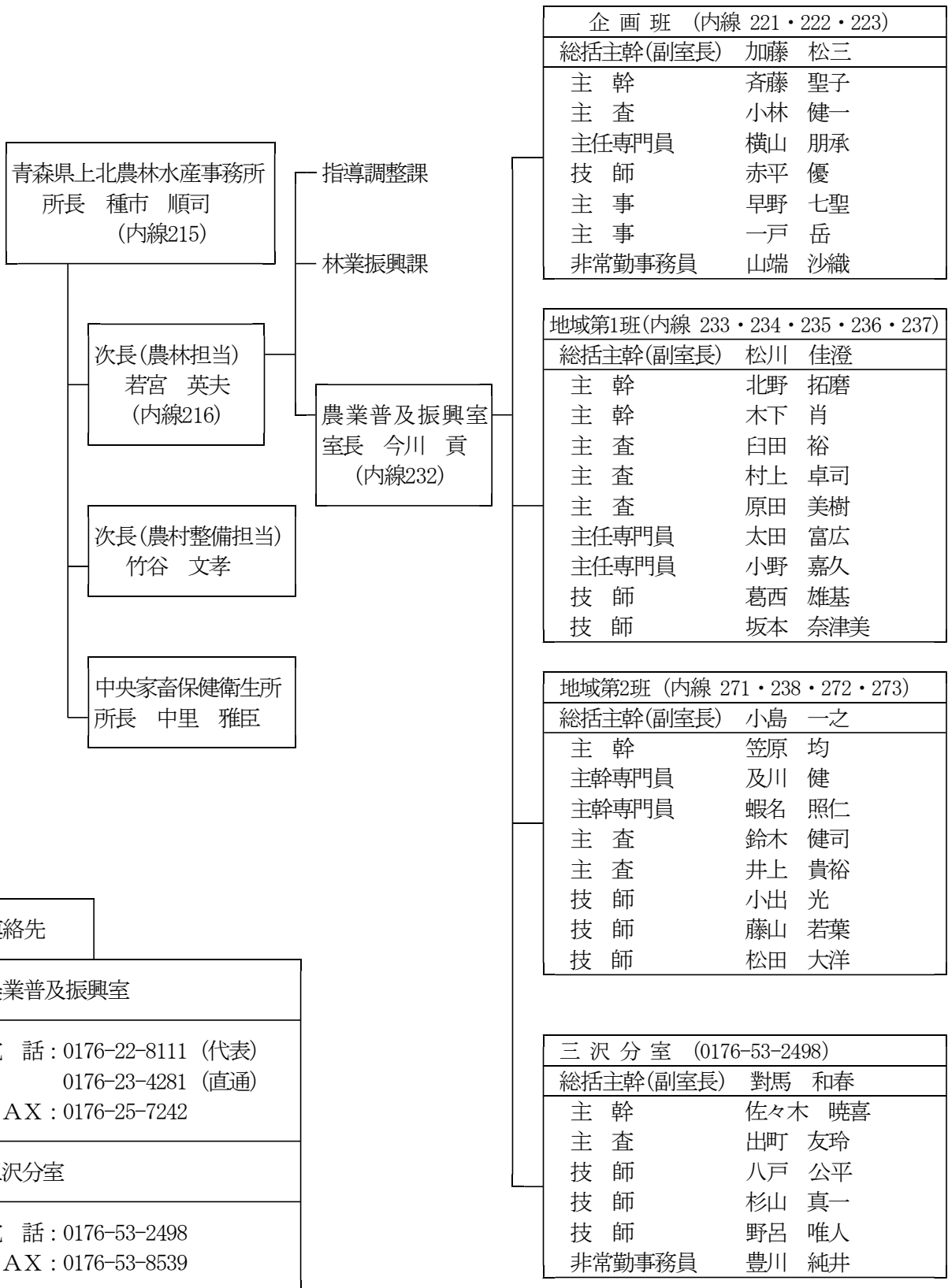
1 気象経過の概要と半旬別気象図	43
2 水稻	46
3 畑作物	49
4 野菜	51
5 花き	57
6 果樹	58
7 飼料作物	59
8 気象災害	60

## VI 付表

1	地域農業の概要	63
2	令和7年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧	68
3	上北地域の農業士会	72
4	かみきたVIC・ウーマンの会	73
5	かみきた農と暮らしの研究会	73
6	とわだグリーン・ツーリズム研究会	73
7	農村青少年クラブ	73
8	直売運営団体	74

# ○青森県上北農林水産事務所の組織体制及び農業普及振興室の班体制

(令和7年4月1日現在)



連絡先
農業普及振興室
電話：0176-22-8111 (代表) 0176-23-4281 (直通) FAX：0176-25-7242
三沢分室
電話：0176-53-2498 FAX：0176-53-8539

## I 写真で見る今年度のトピックス

## 1 農福連携に関する新たな動き

県では、農業と福祉が連携し、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の就労機会等を創出する「農福連携」の取組を推進している。

今年度、新たに管内に連絡会議を設置したほか、農業者等に理解を深めてもらうため「農福連携現地研修会」を開催し、障がい者による農作業の様子を見学したり、取り組む際の課題について話し合った。また、マッチングの場として、「かみきたノウフク交流会」を開催し、農業者と福祉事業所職員が自由に会話をする時間を設けたところ、新たなマッチング相手を探すなど親交を深めていた。

さらに、一般消費者へ取組の理解促進を図るため、イオンモール下田にて農福イベント「農福やるべえ！ひろばin上北」を開催し、地域住民に本取組を周知するなど、農福連携の取組をさらに発展させ、生きづらさを感じている者や高齢者を含む、多様な人々が農林水産業に従事する「ユニバーサル農業」へと活動を広げ、多様な人々が携わる地域共生社会に向けて、取り組んでいる。



農福現地研修会(10/23)



ノウフク交流会(11/28)



農福やるべえ！ひろばin上北(1/31)

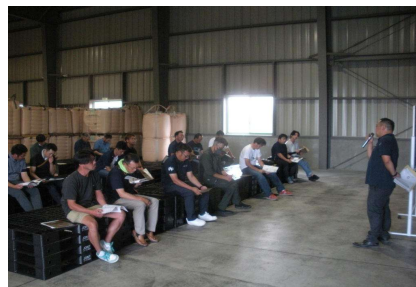
## 2 ヤングファーマーゼミナール先進地視察・交流研修（農業士会との合同開催）

新規就農者や若手農業者の生産技術の習得や経営管理能力の向上を図るため、「ヤングファーマーゼミナール」を開催しており、その一環として、視察研修等を開催した。むつ市の寅福プラントでは、オランダ型フェンローハウスによる約3ha規模の中玉トマト周年生産体制や、環境制御・無人搬送車導入など高度な施設型経営の現場を視察するとともに、出荷販売体や雇用創出など大規模経営の仕組みについて理解を深めた。

また、ジョイント・ファームでは、ながいもの一次加工や販路開拓、組織運営体制等を学び、代表の新堂友和氏（農業経営士）からは「得意分野で突出し、改善を続けることが重要」との助言があり、経営者の視点や挑戦する姿勢の必要性を強く実感する機会となり、規模拡大に加え、収益性向上や市場戦略の重要性を学ぶなど、今後の経営管理能力の向上に繋がる研修となった。



寅福プラント視察(9/5)



ジョイント・ファーム視察(9/5)



ながいもの出荷施設等視察(9/5)

### 3 ながいも新品種等実証ほ成績検討会

「ながいも」で儲かる産地づくりプロジェクト計画に基づく、ながいも優良種苗供給体制の強化に向け、関係機関と連携しながら、新品種「夢雪」の高品質多収栽培技術の早期確立や切いもの種苗増殖体系の導入促進を目的として、ながいもの達人や展示ほ等の担当農家、関係機関で検討会を開催した。

今年度設置した、ながいも新品種「夢雪」栽培技術試験展示ほ（管内6か所）、ながいも種苗増殖方法改善実証ほ（切いも）（管内3か所）の成績について検討した。

「夢雪」については、対照品種の「園試系6」や「庄司系」に比べ、いも長が短く平いもも少なく揃っていたものの、土壌や場所によりコブいもや平いもの発生が顕著となった。

増殖方法については、切いも催芽体系で催芽の温度管理により欠株が多くなるケースがあること、切いも体系でも十分にむかごが収穫できることを確認した。

次年度以降は、新品種の適正施肥や株間、切いもの催芽技術の検討を進めることとしている。



成績検討会(12/17)



新品種「夢雪」(こぶ・平いも有り)

### 4 青森県農山漁村女性リーダー交流会

青森県VIC・ウーマンの会では、毎年、農山漁村女性リーダーの交流と資質向上を目的とした交流会を実施しており、今年度は上北地域が開催地となったことから、企画の段階から、かみきたVIC・ウーマンの会の理事が中心となり、内容について検討を重ね、当日の運営まで担当した。

十和田市の「農園カフェ日々木」で開催された交流会では、農福連携や地元食材を活用したカフェのほか、担い手の確保やスマート農業の導入による作業の効率化等を実践する大規模農生産法人の取組が紹介された。また、地域の食を次世代に継承する食育や養蜂業を行うVIC・ウーマンの取も紹介され、担い手の確保については共通の課題だった様子で、事例紹介者に対する質問や、参加者同士での意見交換がなされ、今後の取組の参考になる研修となった。



農園カフェ日々木での交流 (8/21)



VIC・ウーマンによる養蜂業の紹介 (8/21)

## 5 農業DX推進に向けたトヨタ式カイゼン手法指導者育成

県では、昨今の労働力不足に対応し、本県に適した「農業DX」を展開するため、現場で指導できる人材の育成に取り組んでいる。その一環として、スマート農業技術・機械に「トヨタ式カイゼン手法」を組み合わせた専門技術の習得を目標とした研修会が開催され、当室からは3名の若手職員が参加した。

青森市の観光りんご園の協力を得て、2S（整理・整頓）の実践現場を見学させてもらい、問題の発見及びカイゼン案の提案を行うことで、農業現場におけるトヨタ式カイゼン手法について理解を深め、管内のながいも生産農家に対し、袋詰作業のカイゼン案について提案するなど、若手職員の指導能力の向上を図っている。



観光りんご園での2Sの実践(10/28)



ながいも袋詰作業のカイゼン案の提案(11/5)

## 6 北三沢地区での乾田直播栽培への取組

三沢市の農事組合法人「フラップあぐり北三沢」では、北三沢地区に整備された約120haの大区画ほ場において、乾田直播栽培により飼料用稲を生産している。

同法人は、飼料用稲の安定生産とコスト削減に向け、品種の切替や各種試験を行っており、今年度は、耐病性・耐冷性・耐倒伏性に優れたホールクロップサイレージ用稲品種の「あおばまる」を新たに導入したほか、肥料費削減のためのドローンによる追肥体系の実証に取り組んだところ、収量は慣行の全量基肥体系を上回る結果となった。



ドローンによる追肥作業(5/30)



ホールクロップサイレージ用稲品種「あおばまる」の収穫(9/9)



飼料用米の収穫(10/15)

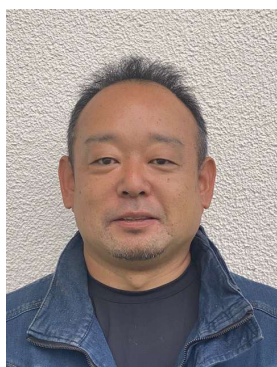
## II 認定

## 1 農業経営士・青年農業士の認定

農業経営士は、優れた農業経営を実践し地域農業や農村生活のリーダーとして指導的役割を果たしている農業者を知事が認定し、その指導活動の促進を図る制度である。上北管内では、令和7年4月1日現在40名が活躍しており、今年度4名が認定期間満了となるとともに、新たに7名が認定された。

青年農業士は、自ら農業及び集団活動に積極的に取り組み、将来とも地域農業の推進者となり得る模範的な農業青年を知事が認定し、その資質向上を図る制度である。上北管内では、令和7年4月1日現在39名が活躍しており、今年度8名が認定期間満了（うち2名が農業経営士に認定）となるとともに、新たに3名が認定された。

### (1) 農業経営士



#### 土嶺 要（つちみね かなめ）氏

ア：十和田市

イ：水稲、にんにく、ねぎ

ウ：十和田市農業委員、青森県農業法人協会

エ：後輩たちや新規就農者にこれからの農業の在り方、農業の楽しさを伝えていきたい。また、自分が先輩たちからいただいた経験や知識を営大生や新規就農者の研修受入に生かしたい。

ア：市町村

イ：経営内容

ウ：主な組織活動

エ：今後の目標



#### 西野 盛孝（にし の もりたか）氏

ア：七戸町

イ：トマト

ウ：JAゆうき青森とまと部会長、七戸町農地利用最適化推進委員

エ：異常気象への対応策を地域の生産者と協力して構築していきたい。また、子供たちに農業に関心を持ってもらえるよう、農作業体験受入れなどの食育活動にも取り組んでいきたい。



#### 金淵 健一（かなぶち けんいち）氏

ア：六戸町

イ：水稲、ながいも、ごぼう、だいこん、ねぎ

ウ：姉沼土地改良区理事、六戸町経営者協議会理事

エ：若手農業者の相談に積極的に乗っていくとともに、就農希望者や学生などの研修も受け入れていきたい。また農作業体験の提供を通して、子供の頃から農業を身近に感じてもらえるようにしたい。



**金渕 亘（かなぶち わたる）氏**

ア：六戸町

イ：ごぼう、だいこん、ながいも

ウ：六戸町農業委員会会長職務代理、六戸町経営者協議会副会長

エ：地域の若手農業者との情報交換を積極的に行い、農業の魅力を伝えながら定着を支援したい。農業機械関係の資格取得を呼びかけ農作業事故の防止に努めたい。



**木村 拓也（きむら たくや）氏**

ア：東北町

イ：だいこん、ながいも、ごぼう

ウ：青森県農協青年部協議会監事、東北町青年農業者会議

エ：自らを育ててくれた農協青年部などのコミュニティーに積極的に参加し、次の世代に確実に引き継いでいきたい。労働力不足に対応するため、農業経営を法人化し、従業員が働きやすい環境づくりを進めていきたい。



**鎌本 貴幸（かまもと たかゆき）氏**

ア：東北町

イ：水稲、ながいも、にんにく、ごぼう

ウ：東北町青年農業経営者会議理事、JAゆうき青森青年部

エ：農協青年部などの活動を通して地域全体で農業後継者を育てていきたい。自らの経営では品種や栽培面積の見直しのほか、効率的な機械作業のため、農地中間管理機構等を活用した農地集約を進めていきたい。



**吉田 琢也（よしだ たくや）氏**

ア：おいらせ町

イ：だいこん、にんじん、ながいも、ごぼう

ウ：おいらせ町認定農業者の会理事

エ：農業体験や職場体験の受入れをとおして、小中学生が農業に対する関心を持ってもらえるよう努めたい。地域の生産者や関係者との情報共有を図りながら、気象変動への対応、スマート農業の推進、遊休農地の解消などに取り組んでいきたい。

(2) 青年農業士



**立崎 準也 (たちざき じゅんや) 氏**

ア：十和田市

イ：ねぎ

ウ：J A十和田おいらせねぎ部会

エ：ねぎ部会の活動の中で、多くの知識や技術を吸収したい。後輩には自分の経験談、農業の面白さを伝えながら、頼りにされる存在を目指したい。機会を見つけて規模拡大を図っていきたい。



**立崎 弘樹 (たちざき ひろき) 氏**

ア：十和田市

イ：ブルーベリー

ウ：若草町内会長

エ：農園カフェで地元農業者とのコラボメニューを展開し地域農業の発展につなげたい。就労継続支援事業での工賃向上のため、農地を拡大し、たまねぎ・水稻を軸に農業収益を拡充していきたい。



**寺澤 祐介 (てらさわ ゆうすけ) 氏**

ア：七戸町

イ：ながいも、さやいんげん、にんにく、ぶどう

ウ：J A十和田おいらせ青年部、七戸町農業後継者の会

エ：所属する農協青年部や町の農業後継者の会、消防団の活動を活性化して、地域ぐるみで後輩農業者を育成していきたい。ながいもを主体に高単価で力作業の少ないサヤインゲンやブドウを組み合わせた農業経営を進めていきたい。

## Ⅱ 認定

### 2 ViC・ウーマンの認定

ViC・ウーマンは、特色ある地域農林水産業や住みよい社会づくりに取り組み、優れた地域活動の実績を持つ農山漁村女性リーダーを知事が認定する制度である。平成6年度からスタートし、現在、県内全体で195名が、地域農林水産業の振興や農山漁村の活性化の推進役を担っている。

上北管内では、令和7年4月1日現在36名が活躍しており、今年度2名が認定期間満了となるとともに、新たに2名が認定された。



#### 村上 美穂子（むらかみ みほこ）氏

ア：十和田市

イ：果樹、農産加工

ウ：経営主として中こう果樹園を運営するかたわら、市内の直売運営組織等に所属し、理事等の役割を担うなど地域のリーダーとして活躍している。

また、市内の小学生を対象とした農作業体験を受け入れや、保育園にりんごジュースを提供するなど継続して食育活動に取り組んでいる。

ア：市町村
イ：経営内容
ウ：活動内容



#### 蛭名 香織（えびな かおり）氏

ア：東北町

イ：水稻、しじみ漁

ウ：東北町農業委員会の農地利用最適化推進委員をしており、合理的な農地の活用に関する相談を受けるなど地域のリーダーとして活躍している。

また、日頃から町内の幅広い世代とコミュニケーションをとりながら、地域活動に熱心に取り組んでいる。

### Ⅲ 普及指導活動の実績

## 1 令和7年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動

### (1) 担い手育成と種苗増殖法の転換によるながいも産地力の強化

- (対象名 ①管内3 J Aながいも担い手育成塾生 81名  
 ② J A十和田おいらせ野菜振興会ながいも採種担当農家 3名  
 ③ J Aゆうき青森野菜振興会種子部会 10名  
 ④ J Aおいらせながいも採種生産組合 8名)

#### 【概要】

J Aと連携した現地検討会等の実施により、ながいも栽培の基本技術の徹底を指導した。また、若手農業者を対象として、生産技術チェックシートを活用した個別指導を実施し、栽培管理の改善を促した。さらに、切いも体系への転換に向けた催芽技術の向上や新品種栽培の実証ほの設置、ウイルス検査の指導を実施し、種苗供給体制の確立に取り組んだ。

#### 【背景・課題】

- ・指導対象①は産地をけん引していく生産者であるため、各種研修やながいも生産技術チェックシートを活用した指導により、栽培技術の向上を図る必要がある。
- ・指導対象②③④は各 J Aから一般農家への種苗供給を行っていることから、ウイルス抜き指導や品質特性を維持できる「切いも」体系へ転換し、優良種苗を安定的に供給していく必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・担い手育成塾生を対象に、県作成の「ながいも生産に関するチェックシート」簡略版を活用し、個別巡回指導を行った。また、育成塾やJ Aの講習会において、天候や生育状況に応じた追肥時期、追肥量の調整や、病虫害防除の指導を行った。
- ・新品種「夢雪」の栽培実証ほ（管内6か所）を設置し、品種特性に合った栽培技術確立のため、現地での適応性の把握に努めた。
- ・切いも体系における催芽温度等の管理方法について、「処理状況チェックシート」を使用し個別巡回指導を行った。
- ・「切いも」体系による種苗生産の実証ほ（管内3か所）を設置し、種苗増殖方法を検討した。
- ・J Aのながいも種苗採種ほ場（むかご生産）においてウイルス罹病株の見分け方、ウイルス罹病株の抜き取り、定期的な防除を指導し、ウイルス検査を行った。



ながいも栽培技術講習会 (6/16)



塾生個別指導 (9/9)



ながいも担い手育成塾 (12/17)

### Ⅲ 普及指導活動の実績

#### 【成果】

- ・ 塾生と「ながいも生産に関するチェックシート」で確認した結果、病害虫の防除間隔が長いなどの、個々の課題が指摘できたことで、塾生が課題を認識し改善意識の向上につながった。また、講習会等により、気候変動に応じた追肥判断の仕方や、病害虫多発時の農薬の選択方法等が理解された。
- ・ 新品種「夢雪」の現地実証により、品種特性であるコンパクトな形質が確認されたほか、地域や土質による形状差があることも明らかとなった。
- ・ 切いもの管理方法について「処理状況チェックシート」で確認した結果、管理状況にばらつきが見られたため、今後、更に技術指導を行い、管理を徹底する必要がある。
- ・ 種苗増殖方法を切いも体系に転換しても、JAが生産者に供給する優良種苗のむかご量が十分確保されることを確認した。
- ・ 優良種苗生産では、ウイルス罹病株の見分け方や注意すべき防除対策が理解され、優良種苗の生産につながった。

(関連事業：青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）)

## （２）技術改善と基本技術の徹底による大豆の生産力強化

（対象名 集落営農組織等 3 組織、5 ha以上の生産者 9 戸 計12経営体）

### 【概要】

個別巡回指導や生産情報の提供、栽培研修会の開催、実証ほの設置により、適期作業と基本技術の徹底を指導したほか、大豆栽培技術改善策整理表の作成を通じて、各経営体の課題を洗い出し、技術改善の取組を支援した。

### 【背景・課題】

上北地域は、転作作物として大豆が大規模に作付けされているが、収量・品質の年次変動が大きい状況にあることから、大豆栽培技術改善整理表を各経営体で作成し、指導を行ったところ、基本技術の励行と技術改善に取り組む経営体もみられ、大豆の収量向上につながってきた。しかし、まだ改善の取組をしていない経営体もあり、収量を安定化させるため、引き続き支援していく必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- ・生産情報誌「だいでず通信」を発行し、生育調査結果に基づいた作業適期について情報発信し、基本技術の徹底や適期作業の実施を呼びかけた。
- ・大豆の収量・品質を向上させるため、経営体ごとに栽培上の課題を整理し、栽植本数の適正化及び多発雑草に合わせた除草剤の使用、病虫害防除薬剤の効果的な使用等の導入を図った。
- ・堆肥利用による大豆連作条件下での収量確保に向けた実証ほや、茎葉処理除草剤の散布時期の早晩による除草効果を検証する実証ほを設置し、地域に合った栽培方法の確立に向けて取り組んだ。
- ・大豆生産者座談会の開催により、生産者やJA、県等の関係機関で大豆の生産性向上に係る情報共有を行い、改善技術の導入効果等を確認した。



適期刈取指導 (11/5)



上北地域大豆生産者座談会 (2/27)

### 【成果】

- ・生産情報誌「だいでず通信」は作業計画に役立てられ、使用薬剤や防除時期の見直しにより、栽培管理の適正化が図られた。
- ・個別指導や栽培講習会の開催により、ほ場の適正管理及び適期作業への意識が高まり、新たに6経営体が、栽培技術の改善策を導入したほか、経営体の平均収量が目標を上回った。

### (3) 新規就農者の定着と経営管理能力の強化

(対象名 農業次世代人材投資資金受給者、青年等就農資金借入者等)

#### 【概要】

新規就農者や若手農業者の生産技術の習得や経営管理能力の向上を図るため、営農基礎から経営管理まで体系的に学べる「ヤングファーマーゼミナール」を開催し、基礎技術習得と経営管理能力向上を支援するとともに、支援を希望した就農者を重点指導対象者として選定し、個別課題の解決に向けた伴走支援を継続して実施した。

#### 【背景・課題】

近年、多様な就農形態の新規就農者が増加しているが、自営就農者の多くは、農業に関する知識・技術が不足し、農産物の収量・品質が不安定で、さらに経営感覚も身に付いていないことから、目標となる所得を確保できていない。また、非農家出身者の中には、地域で孤立し、営農に関する身近な相談や、農業に関する情報収集ができずに離農する者も見受けられている。

このため、基礎的な生産技術の習得や経営管理能力の向上に加え、重点指導対象者の個別課題の解決、農業士会等と連携した地域ぐるみでの支援の充実が必要である。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・年間を通じて「ヤングファーマーゼミナール」を開催し、土づくりや農薬の使用法、農作業安全等の基礎的な生産技術に加え、パソコン農業簿記を活用した経営管理まで、体系的に知識習得ができるよう支援した。(6月、9月、11月、12月、1月、2月、3月)
- ・面談等により重点指導対象者16名を選定した上で、にんにくやトマト等の各品目で病虫害診断や肥培管理等の個別課題の解決に向けて、関係機関と連携しながら、伴走支援した。(随時、4～10月、延べ70回以上)
- ・管内3地区農業士会と合同で、先進地視察研修を寅福プラント(むつ市)、ジョイント・ファーム(六戸町)で開催し、先輩農業者との交流の場を設定した。(9月)。



営農基礎講座①(6/6、土づくり)



農作業安全等研修(11/6)



営農基礎講座③(12/15、堆肥他)

#### 【成果】

- ・ヤングファーマーゼミナールの開催により、受講者の理解が深まり、基礎技術の習得と経営管理能力の向上が図られた。
- ・重点指導対象者の多くで技術課題の改善策が整理され、次期作への改善に向けた意識醸成が進んだ。
- ・先輩農業者との交流を通じて、今後の営農に参考となる知識や人脈を得た。

(関連事業：新規就農者定着推進事業、新規就農者育成総合対策事業)

## （４）水稲生育障害発生水田における主食用米安定生産

（対象名 おいらせ町日ヶ久保地区の稲作農家 16戸）

### 【概要】

令和6年5月の田植え後に、海水の流入が原因と考えられる水稲の生育障害が発生したことから、水田土壌の塩類濃度を把握するとともに、関係機関と連携し、農業者の除塩作業の実施を支援した。

### 【背景・課題】

令和7年3月に全68ほ場の土壌ECを測定した結果、12ほ場が除塩が必要となる基準値0.5mS/cm以上であった。塩類濃度障害を回避するためには、石灰資材の散布による除塩作業の実施と、生育状況に応じたきめ細かな肥培管理を指導する必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- ・水稲育苗講習会において、除塩作業の実施と丁寧な代かき、栽植株数の確保、雑草防除の徹底を指導した。（4月）
- ・除塩作業実施後に土壌ECを測定し、全ほ場の塩類濃度が基準値以下に低下していることを確認し、その結果を農業者に情報提供した。（5月）
- ・町、JA、土地改良区、共済組合、県（農業普及振興室・農村計画課）、農林総合研究所で構成する「関係者連絡会議」を開催し、土壌分析結果や生育状況について情報共有するとともに、今後の対応について検討した。（6月）
- ・令和6年度に被害が著しかったほ場2か所の生育調査を行い、生育状況と技術対策について土地改良区に情報提供するとともに、個別に現地指導を行った。（6～9月）



水稲育苗講習会（4/23）



水田土壌採取（5/16）



豊かに実ったほ場（9/12）

### 【成果】

- ・町が独自に石灰資材の購入や燃料代への補助を行うなど、関係機関が一体となって除塩作業を指導した結果、除塩が必要な農業者6名全員が石灰資材を散布した。
- ・除塩作業の実施ときめ細かな肥培管理が行われたことにより、生育量が十分に確保され、生育観測ほ場の坪刈り収量は10a当たり13俵以上となった。また、1月に実施した聞き取り調査結果でも、例年並以上の収量を確保したとの声が多かった。

## 2 普及関連組織の活動状況

### (1) 農業士会

上北地域の農業士会は、十和田地区、三沢地区、野辺地地区の3地区があり、いずれも地域における農業者のリーダーとしての資質向上と担い手の育成、会員相互の親睦を目的として設立され、研修会の開催、営農大生や新規就農者の研修受入等を行っている。

#### ア 十和田地区農業士会

##### (ア) 合同研修会

令和7年9月5日、十和田地区、三沢地区、野辺地地区農業士会合同研修会を(株)寅福プラント(むつ市)、ジョイント・ファーム(株)営業所(六戸町)で開催し、十和田地区からは4名が参加した。



合同研修会(9/5)

##### (イ) 冬期研修会

令和8年1月26日、十和田市で農業経営士認定期間満了者の甲田一博氏からの講話とみどり戦略、みどり認定をテーマに研修会を開催し、11名が参加した。

##### (ウ) 県連事業への参加

令和7年7月31日に青森市で開催された県農林水産部長との意見交換会に2名が参加した。

#### イ 三沢地区農業士会

##### (ア) 現地検討会の開催

令和7年9月5日、十和田地区、三沢地区、野辺地地区農業士会合同研修会を(株)寅福プラント(むつ市)、ジョイント・ファーム(株)営業所(六戸町)で開催し、三沢地区からは13名が参加した。

##### (イ) 冬期研修会

令和8年1月22日、「農業分野における知的財産の活用」をテーマに研修会を開催し、10名が参加した。

##### (ウ) 県連事業への参加

- a 令和7年7月31日に青森市で開催された県農林水産部長との意見交換会に2名が参加した。
- b 令和7年8月26日～27日に宮城県仙台市他で開催された令和7年度東北・北海道地域農業士研究会に2名が参加した。

(エ) 営農大学校生等の研修受入実績

- a 営農大学校農家実習の研修受入  
前期（令和7年6月4日～17日）の受入会員及び受入人数  
沼田 麻憲氏（三沢市） 1名
- b 農業普及振興室職員の農家派遣研修受入  
春期5月・秋期9～10月（延べ20日間）赤石 義周氏（六戸町）

ウ 野辺地地区農業士会

(ア) 合同研修会

令和7年9月5日、十和田地区、三沢地区、野辺地地区農業士会合同研修会を（株）寅福プラント（むつ市）、ジョイント・ファーム（株）営業所（六戸町）で開催し、野辺地地区からは3名が参加した。



冬期研修会（2/17）

(イ) 冬期研修会

令和8年2月17日、みどり戦略、みどり認定、有機農業の取組についての研修会を開催し、16名が参加した。

(ウ) 営農大学校農家実習の研修受入実績


- a 前期（令和7年6月4日～17日）の受入会員及び受入人数  
乙部 英夫氏・暁氏（東北町） 1名
- b 後期（令和7年8月29日～9月11日）の受入会員及び受入人数  
向井 博徳氏（東北町） 1名

Ⅲ 普及指導活動の実績

(2) かみきたVIC・ウーマンの会

ア 農山漁村女性リーダー研修会及び活動交流会

(ア) 研修会

期 日	令和8年1月29日(木)
場所等	きざん三沢(三沢市) 22名参加
内 容	<p>【農山漁村女性リーダースキルアップセミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「伝える力、つながる力へ～次世代が育つコミュニケーション～」 講師：清水 マリエ氏(元大手企業 人事・マーケティング担当)</li> <li>○事例紹介「ハーブ農家「CONSE FARM」の挑戦」 事例紹介者：青森県VIC・ウーマン 赤石 美樹氏</li> </ul>  <p style="text-align: center;">女性リーダー研修会(1/29)</p>

(イ) 交流会(青森県農山漁村女性リーダー交流会と併催)

期 日	令和7年8月21日(木)～22日(金)
場所等	みなづき食堂(六戸町) 13名参加
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8月21日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こけ玉づくり体験 講師：奥入瀬モスボール工房(十和田市)</li> <li>・十和田アグリ株式会社の取組と担い手育成に関する事例紹介 事例紹介者：十和田アグリ株式会社代表取締役 ／青森県農業経営士 竹ヶ原 直大氏</li> </ul> </li> <li>○8月22日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・養蜂業の紹介とみつろうクリームづくり 事例紹介者：青森県VIC・ウーマン 澤谷 久美子氏</li> <li>・株式会社亜里屋の取組紹介 事例紹介者：青森県VIC・ウーマン 金淵 貞子氏</li> <li>・東北町における地域おこし協力隊 事例紹介者：東北町地域おこし協力隊 江村 俊明氏</li> </ul> </li> </ul>

イ 地区別の地域活性化活動

新規VIC・ウーマンの掘り起こしと女性リーダーとしてのスキルアップを目的に、4地区で研修会や交流会を実施した。  
(令和7年3月～10月、延べ4回32名)



地区別の地域活性化活動(9/8)

(3) かみきた農と暮らしの研究会

ア 視察研修

期 日	令和7年8月28日(木)
場所等	岩手県九戸村商工会館他 16名参加
内 容	<p>【岩手県北の保存食や郷土料理に関する事例調査】</p> <p>①「伝統的な食文化の普及と伝承について」 事例紹介者：元九戸村地域おこし協力隊 佐藤 快威氏</p> <p>②「九戸村に伝わる『しみだんご』について」 事例紹介者：岩手県食の匠 長坂 成子氏</p>



岩手県の食文化の伝承について(8/28)



「しみだんご」について(8/28)

イ 生活講座

12月10日(水)に予定していた生活講座(野菜のおいしい食べ方)については、令和7年12月8日に発生した青森県東方沖地震により、開催を中止とした。

(4) とわだグリーン・ツーリズム研究会

ア レベルアップ研修

期 日	令和7年10月29日（水）
場 所 等	弘前大学（弘前市）・グリーンファーム農家蔵（平川市）
内 容	<p><b>【先進地事例研修】</b></p> <p>「援農」と「農泊」について学ぶため、弘前大学とグリーンファーム農家蔵への視察を行った。</p> <p>○弘前大学</p> <p>弘前大学では、弘前大学「農家・農村サポートサークルチームだんぶり」との意見交換を行った。実際に援農を行っている学生らから聞き取りを行い、飲食やトイレへの配慮、作業時間や送迎の有無等、学生らと共同作業を行う際の注意点を中心に、率直な意見を聞くことができた。</p> <p>○株式会社グリーンファーム農家蔵</p> <p>農家蔵では、農泊を継続する方法について学んだ。特に、事業継続のポイントとして、「宿泊者に過剰なサービスをしない」、「客扱いせず普段の農家の姿を見せる」等、無理をしないこと、また宿泊先の調整、協力農家の掘り起こし等、事務局活動のあり方が重要であることを学んだ。</p>



大学生との意見交換



農家蔵での研修

イ 伝統文化継承に向けた研修（しめ縄づくり）

期 日	令和7年12月22日（月）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統文化を継承する取組の一環として、会員を講師に、しめ縄づくりを学んだ。</li> <li>・材料は、地元で自生するスゲを夏場に刈り取り、柔軟性を持たせるため水に浸す等、前処理を行ったものを使用した。</li> </ul>



※本研究会は、会員の高齢化等の理由により、1月の総会を持って解散が決議された。解散後は、必要に応じて、会員が個別に近隣のグリーン・ツーリズム団体と連携しながら活動していく。

## (5) 農村青少年クラブ

本年度は、プロジェクト活動の支援及び地区間交流の推進を通じて、若手農業者の課題解決能力の向上とネットワーク形成を図った。

上十・三沢・十和田七戸の3地区において、栽培試験、情報交換、地域貢献活動など、多様な取組が展開された。

令和8年2月19日に上北地域青年農業者会議を開催し、各地区4Hクラブによるプロジェクト活動成果及び意見発表を通じて、情報共有や自己研鑽等を図った。

### ア 上十地区4Hクラブ連絡協議会

#### (ア) 主な活動

##### a 共同プロジェクト（1課題）

- ・「ながいもの追肥のタイミングが生育に与える影響」

##### b 新規加入者の掘り起こし

- ・会員勧誘の結果、新たに2名が加入し、組織基盤の強化に繋がった。

##### c 組織運営支援

- ・ながいもの販売研修を実施した。

①11月1日～2日（東北町：東北町北総合運動公園）

②12月7日（藤崎町：ふじさき食彩テラス）

#### (イ) 会議等の開催

全体会2回（4/22、10/16）、役員会3回（5/16、11/17、1/14）

三役会2回（4/4、7/11）、総会（3/6）



共同プロジェクトながいも調査（11/31）



ふじさき食彩テラスでの販売会（12/7）

### イ 三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会

#### (ア) 主な活動

##### a 個人プロジェクト（2課題）

①「だいこんにおける各粒剤が主要害虫及び収量・品質に及ぼす影響の検討」

②「にんにくにおけるMg葉面散布が収量・品質に及ぼす影響の検討」

##### b 新規加入者の掘り起こし

候補者への働きかけを行ったが、加入には至らなかった。

### Ⅲ 普及指導活動の実績

#### c 地域貢献活動

児童施設へのハロウィンかぼちゃ寄贈を実施した。

(10月16日：いちい幼稚園、10月24日：織笠児童館)

#### d 機関紙「手」第56号の発刊

令和8年3月発行

#### (イ) 会議等の開催

定例会5回(4/7、5/27、9/2、  
10/9、11/20)

三役会1回(1/6)

総会(3/11 ※書面開催)



寄贈用かぼちゃの磨き作業(10/15)

#### ウ 十和田七戸4Hクラブ

##### (ア) 主な活動

##### a プロジェクト活動の準備

個別プロジェクト課題設定に向けた検討を行った。(11月10日、参加1名)

##### b 新規加入者の掘り起こし

候補者への働きかけの結果、1名が加入した。

##### c 地域貢献活動等

- ・ハロウィン向けかぼちゃ寄贈(10月24日、十和田市地域交流センター)
- ・飲食店とのコラボ企画における食材提供(11月5～9日、参加5名)

##### (イ) 会議等の開催

定例会6回(4/2、6/3、7/29、9/19、11/26、1/28)

総会(3/4)

##### (ウ) ヤングファーマーゼミナールへの参加

- ・管内3地区の農業士と交流を兼ねた先進地視察・交流研修に3名が参加した。
- ・視察先候補の提案に携わるなど、主体的な姿勢が見られた。



会員が育てたハロウィン向けの小型かぼちゃ寄贈(10/24)



飲食店コラボ用ポスター  
(11月5～9日)

### 3 普及情報の発行・発信

#### (1) かみきた楽農通信

管内生産者及び関係機関に対し、上北地域における普及指導活動を情報発信するため、情報誌を発行した。

○発行回数 2回 発行部数 延べ526部

発行月日	主 な 内 容
令和7年 4月25日 (第66号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな農業経営士、青年農業士の紹介</li> <li>・春の農作業安全運動展開</li> <li>・農薬の適正使用について</li> <li>・みどり認定について</li> <li>・職員紹介</li> </ul>
令和8年 2月6日 (第67号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の管内の作柄を振り返って</li> <li>・令和7年度における農業普及振興室の主な活動</li> <li>・あおもり旨い米グランプリ受賞者紹介</li> <li>・新任職員の活動紹介</li> </ul>

#### (2) 上北農業生産情報

水稲、畑作、野菜等について定期的に生育調査し、それに基づく今後の栽培管理について迅速に関係機関・農家等へ情報提供することを目的に、上北農業生産情報を発行した。(4月～10月 発行回数計7回)

今年度は、加えて、7月に飼料作物で発生したヨトウ類の防除について、9月に水稲の適期刈取についての臨時農業生産情報を発行した。(7月、9月 発行回数計2回)

#### (3) インターネットサイトによる情報提供

上北農林水産事務所農業普及振興室サイトに管内の生産情報や農業関連情報等を掲載した。

○ホームページ更新回数(延べ) 32回

コーナー名	主 な 内 容	更新回数
上北の 農林水産業	上北の農林水産業	1回
農業関係情報	半旬別気象図、上北農業生産情報、情報誌「かみきた楽農通信」、小麦・大豆の生産情報、上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール、普及指導活動のまとめ ほか	27回
農福連携	「令和7年度上北地域農福連携現地研修会」、「令和7年度かみきたノウフク交流会」 ほか	3回
お知らせ	「上北そば」認定店認定制度実施要領等更新	1回

## IV 令和7年度実施事業

## 1 農業普及振興室直営事業

## (1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業（重点枠 R7）

※農村整備課予算

## ア 事業目的

県南地方最大規模のほ場整備が実施されている小川原湖周辺の土場川地区において、軟弱地盤の克服やスマート農業の導入を図りながら、整備後のほ場への高収益作物の導入を進める。

## イ 事業内容

## (ア) 排水対策を講じた水田への野菜作付実証

令和7年度は、令和6年度に設置した、たまねぎ作付実証ほ（東北町1か所）の生育調査及び収量調査を実施した。

たまねぎ栽培は苗の定植が一般的だが、本事業では省力・低コスト化を図るため、直播栽培の現地適応性を試験した。

## a 耕種概要

設置場所：東北町間手場74,860a

種苗品種：もみじ3号

播種日：令和6年9月19日（直播栽培）

収穫日：令和7年7月10日（収量調査日）

栽植様式：うね幅150cm、条間24cm、株間10cm、条数4条、うね高20cm

## b 調査概要

は種時、ほ場内の砕土率が低かったことから、除草剤の効果が不十分で、雑草が繁茂したほか、種子が吸水不足となり、苗立ち率（11月15日調査時41.7%）が低かった。

越冬直後は枯死株も散見され、欠株が多数発生している様子が見られた。

生育期間中は除草剤の散布も行われたが、欠株部分を中心に雑草が繁茂した。

収量調査は、収穫の目安である茎折れが始まった7月10日に実施し、5か所から健全な株を連続5株（合計25株）を採取して行った。

平均玉重は256.1g、平均玉径は78.9mm（JA全農あおもりの出荷規格でL規格）となった。

今後の安定生産に向けては、ほ場の排水性を見極めのほか、施肥や防除の適期作業、緻密な砕土作業など、栽培技術を高めていく必要がある。

## (イ) 取組結果の周知

上記取組で得られた知見等をリーフレットにまとめ、土場川地区の担い手農家に対し高収益作物やスマート農業の有効性等を情報発信した。（2月）



収量調査時のほ場の様子（7/7）



収量調査時のたまねぎ（7/11）

**(2) 農山漁村女性の経営参画推進普及事業 (国庫 R6～)**

**ア 事業目的**

農山漁村女性の経営参画に向けた取組を推進し、農業の経営力強化と地域の活性化を図る。

**イ 事業内容**

(ア) 女性の経営参画セミナーの開催

- ・期 日：令和8年1月29日
- ・場 所：きざん三沢（三沢市）
- ・内 容：

講演「伝える力から、つながる力へ～次世代が育つコミュニケーション～」

講師：CommuCom 清水 マリエ氏

事例紹介「ハーブ農家『CONSE FARM』の挑戦」

事例紹介者：青森県VIC・ウーマン 赤石 美樹氏

- ・出席者：26名



女性の経営参画セミナーの様子（1/29）

(イ) 農山漁村女性活動担当者会議の開催

- ・日 程：令和7年5月30日～6月11日のうち4日
- ・方 法：管内各市町村及びJAを巡回
- ・内 容：農山漁村女性活動支援の事業及びVIC・ウーマン候補者の情報共有

(ウ) VIC・ウーマン候補者の掘り起こし

農山漁村女性活動担当者会議やVIC・ウーマンが主催した地域の交流会の実施等により、新たに2名を掘り起こすことができた。

(エ) 家族経営協定の推進状況

市町村名	戸 数
十和田市	2
三 沢 市	1
七 戸 町	1
東 北 町	3
六ヶ所村	2
合 計	9



家族経営協定調印式（七戸町）

(令和8年3月末現在)

### (3) 農山漁村女性の活躍応援事業（国庫 R5～7）

#### ア 事業目的

女性の視点を生かした起業活動による経営参画のほか、若手農業女子の「仲間づくりの場」を創出する活動等への支援により、農山漁村を支える次世代の人材育成と女性の活躍促進を図る。

#### イ 事業内容

##### (ア) 起業に向けた研修

期 日：令和7年8月29日（金）

場 所：十和田合同庁舎 B会議室

内 容：起業に向けた事業アイデア（夢）を具体化するための手法等について

出席者：6名



夢の具体化手法を学ぶ



グループワークで考えを伝える

##### (イ) 地域資源活用に向けた研修

期 日：令和7年12月19日（金）

場 所：十和田合同庁舎 A会議室

内 容：テーマ「老朽化の進んだ古民家をどうすべきか」について

話題提供者：中野渡 寿子氏

出席者：5名



発表する中野渡氏

##### (ウ) 仲間づくりに向けた研修

期 日：令和8年1月28日（水）

場 所：amor coffee（七戸町）

内 容：LINEビデオ通話とAIの活用について

講 師：オフィスカナン株式会社

代表 河内 啓樹氏

出席者：6名（会場4名＋オンライン2名）



ビデオ通話設定中

## (4) 青森県ユニバーサル農業推進事業（国庫・県単 R6～8）

### ア 事業目的

ユニバーサル農業の取組拡大に向けて、地域の状況を踏まえたマッチングを支援するほか、特別支援学校新卒者の雇用就農を促進するとともに、対象領域の拡大など取組の輪の拡大に取り組む。

### イ 事業内容

#### (ア) 農福連携（福祉事業所）データベースの作成

上北管内で農福連携を希望する17福祉事業所を対象に、希望する実施時期、作業内容等についてアンケート調査を行い、データベースを作成した。構造政策課で県内全域の結果をとりまとめ、HPで公表した。

#### (イ) 障がい者による作業動画の作成

農業者が農福連携に取り組む際の教材等として活用するため、管内の実践者から協力を得て、聞き取りした注意点や、障がい者による、にんにく、ながいも、ミニトマトの作業状況を撮影し、県構造政策課が動画を編集し作成した。



ながいもの植付(5/29)

#### (ウ) 現地研修会の開催

十和田市で現地研修会を開催し、障がい者によるねぎ調製作業の見学や、コーディネーターである(株)レイズの長畑幸治氏からの作業料金の設定の考え方の説明等を通じて、取組上の課題について理解を深めた。(10/23、出席者32名)



ねぎの調製作業の説明(10/23)

#### (エ) かみきたノウフク交流会の開催

農業者と福祉事業所をつなぐ場として交流会を開催し、先進事例の情報収集や参加者が自由に会話できる懇親の場を設け、新たなマッチングの機会を創出した。(11/28、出席者56名)



事例紹介の様子(11/28)

#### (オ) 上北地域ユニバーサル農業推進連絡会議の開催

関係機関の連携強化による更なる取組拡大に向けて、4月に連絡会議の要領を定めて設置した。本年度は、障がい者が施設外就労時に使用可能なトイレについて、周辺施設の管理者に情報提供を依頼したほか、2月に会議を開催して関係機関等の7年度の取組状況や今後の活動について情報共有を図った。(2/5、出席者19名)

## (5) あおもりの「食」を育む食育県民運動推進事業（国庫・県単 R6～8）

### ア 事業目的

県民が健全な食生活を生涯にわたって実践していくため、県民のライフステージに対応した食育活動を展開するとともに、食育指導者の育成に対する支援を行う。

### イ 事業内容

- (1) 令和7年度食育活動実践プロジェクトの実施  
審査の結果、今年度は3団体に委託し実施した。

#### ア 佐藤 トミ氏（十和田市）

##### ○ 事業の目的

高齢者を対象とし、不足しがちなタンパク質や旬の食材を用いた食育教室を開催し、单身など孤立しやすい高齢者の交流する場を設ける。

##### ○ 事業内容

調理教室、健康に関する講話（計3回）

#### イ 山端 一雄氏（十和田市）

##### ○ 事業の目的

園児及びこども食堂を対象に、作物の食農体験を通じて、地産地消の大切さを伝える。

##### ○ 事業内容

さつまいもと小麦の収穫・調理体験（計5回）

#### ウ エコレンジャーセブン（七戸町）

##### ○ 事業の目的

郷土の味を学び、味わうことで地域の食文化を伝承する機会とする。

##### ○ 事業内容

- ・後世に引き継ぎたい郷土料理のアンケート調査
- ・小学生以上の地域住民を対象とした調理実習（計3回）
- ・人気が高い地域食のレシピカードの作成・配布

- (2) 上北地域食育ネットワーク協議会研修会の開催

- ・日時：令和7年11月18日（火）
- ・場所：農園カフェ日々木（十和田市）
- ・話題提供：
  - 「農家レストランにおける食・農・福の取組」  
（一社）日々木の森 代表 立崎 文江氏
  - 「食改さんの活動を支える事務局としての取組」  
六戸町福祉課 管理栄養士 岩木 亜由美氏
- ・情報交換

本年度の各団体・市町村等の取組状況、上記実践プロジェクトの活動内容、国の次期食育計画の骨子案等について情報共有した。（出席者15名）



調理実習の様子（11/20）



さつまいもの収穫(10/2)



研修会の様子（11/18）

**(6) 放射性物質モニタリング調査 (県単 H24~R7)**

**ア 事業目的**

平成24年4月1日から、食品中の放射性物質の基準値（厚生労働省）が変わったことに対応し、管内主要農林産物の放射性物質モニタリング調査を実施し、その安全性を確認する。なお、放射性物質モニタリング調査は、今年度で終了する。

**イ 令和7年度実施結果 (上北農林水産事務所担当分)**

今年度は玄米6点、ながいも5点、原木しいたけ1点、野生きのこ類1点で放射性物質モニタリング調査を行ったが、いずれも基準値である100[Bq/kg]を超える放射性セシウムは検出されなかった。

放射性セシウム調査実績

分類	品目数	件数	品目名	セシウム134 (Bq/kg)	セシウム137 (Bq/kg)
穀類	1	6	玄米	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
野菜	1	5	ながいも	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
林産物	2	2	原木しいたけ	検出されず (<5.0)	7.9
			野生きのこ類	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
計	4	13			

**(7) 青森県特別栽培農産物認証制度 (県単 H11~)**

**ア 制度概要**

国の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」、「青森県特別栽培農産物認証要綱」に基づき、農薬や化学肥料を使用しない、又は、通常の5割以下に減らして生産した農産物を「青森県特別栽培農産物」として認証している。

**イ 認証実績 (生産流通)**

市町村名	品目	認証数(件)	生産者(人)	ほ場面積(a)	認証区分
十和田市	水稻、大豆、ながいも、にんにく、小豆、トマト	11	11	507	A : 8 C : 1 F : 2
七戸町	水稻、にんにく、アピオス	4	22	2,326	A : 1 F : 3
東北町	にんにく	1	1	20	F : 1
おいらせ町	えごま、アピオス	2	4	81	A : 2
合計		18	38	2,934	A : 11 C : 1 F : 6

認証区分：  
**A** 農不・化不（農薬不使用・化学肥料不使用）  
**B** 農不・化5（農薬不使用・化学肥料5割以下）  
**C** 節農不・化不（節減対象農薬不使用・化学肥料不使用）  
**D** 節農不・化5（節減対象農薬不使用・化学肥料5割以下）  
**E** 節農5・化不（節減対象農薬5割以下・化学肥料不使用）  
**F** 節農5・化5（節減対象農薬5割以下・化学肥料5割以下）

**(8) 新規就農者定着推進事業 (県単 H28～)****ア 事業目的**

新規就農者や若手農業者を対象とした農業の基礎的な知識・技術に係る研修会や相談会の開催により、意欲ある多様な人財を農業の担い手として育成する。

**イ 「上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール」(資質向上支援活動)**

期 日	研修名及び内容等	講 師	人数
6月6日	営農基礎講座①「土づくりと肥料、土壌診断」	当事務所農業普及振興室	8名
6月9日	【十和田合庁(6日)、分室(9日)】	担当者(村上主査)	3名
6月20日	営農基礎講座②「農薬等の使い方」 【分室(20日)】	当事務所農業普及振興室 担当者(村上主査)	3名
9月5日	先進地視察・管内農業士との交流研修 ①株式会社寅福プラント(むつ市) ②ジョイント・ファーム株式会社(六戸町)	①同社担当者 ②代表取締役 新堂 友和 氏	6名
11月6日	農作業安全等研修【(株)みちのくクボタ十和田事業所】 ①県内における農作業事故の発生状況と農作業安全のポイント ②熱中症対策について(情報提供) ③実機による実演 「トラクター等の安全使用とメンテナンス」	①農林水産政策課 主査 工藤 貴仁氏 ②当室担当者(村上主査) ③クボタアグリサービス株式会社 秋田担い手推進部 藤井 勉 氏	7名
12月15日	営農基礎講座③【十和田合庁】 「堆肥の活用と熱中症対策について」 ①良質な家畜堆肥の見分け方と有効活用のポイント ②持続可能な農業への取組 ③熱中症対策と作業負担軽減のための体験会	①植田 祐介氏 ②当室担当者(小出技師) ③(株)サンメディカル八戸営業所	7名
12月22日	農業経営研修1-1【十和田合庁】 「農業税制、確定申告、農業簿記の基礎」	株式会社近田会計事務所 監査2課課長 柴田 英明氏	7名
12月25日	農業経営研修1-1【原燃テクノロジーセンター】 「パソコン複式簿記の基礎」	農業普及振興室担当職員 (臼田主査、村上主査他)	4名
令和8年 1月28日 1月30日	農業経営研修2-1【十和田合庁】 「パソコン農業簿記基礎・応用編」	農業普及振興室担当職員 (臼田主査、村上主査他)	6名
2月16日 2月17日	農業経営研修2-2【十和田合庁】 「パソコン農業簿記実践編」	農業普及振興室担当職員 (臼田主査、村上主査他)	5名
3月25日	農業経営研修3【十和田合庁】 「農業セーフティネット制度、経営分析」	NOSAI青森南部支所担当者 (株)近田会計事務所柴田氏	未定

注) 人数は、新規就農者・就農希望者・若手農業生産者を記載、【 】は、開催会場。

**(9) 農業グローバル人材育成システム確立支援事業 (国庫・県単 R6～8)****<「青森農業経営塾」の開講>****(ア) 経営塾の目的**

グローバル化の進展や物価高騰、デジタル技術の進展など社会情勢が大きく変化  
 する中、大局的な視点を持って本県農業をけん引する新たなリーダーを育成するた  
 め、利益追求と実践的な経営能力の向上を図る。

**(イ) 上北管内における受講状況**

本県農業をけん引する新たなリーダーの育成を目的に開講している「あおもり農  
 業経営塾」に、今年度、当管内から3組5名が参加し全員がカリキュラムを修了し  
 た。

**(ウ) 研修の年間スケジュール**

期 日	内 容
令和7年7月25日	開講式・ガイダンス等、第1回セミナー 内容：グループワーク・個人ワーク
8月22日	第2回セミナー 内容：理念・ビジョン策定
9月1日	県内視察研修 内容：寅福（むつ市）を視察
9月24日	第3回セミナー 内容：経営戦略概論
11月21日	第4回セミナー 内容：マーケティング・商品開発
12月8日	第5回セミナー 内容：農業経営・ビジネスモデルの事例研究
12月22日	第6回セミナー 内容：財務管理・経営計画策定
令和8年1月9日	第7回セミナー 内容：財務管理・経営計画策定
1月17日、20日 24日、27日	個別面談
1月21日	県外視察研修 内容：吉田ファーム（岩手県紫波町）を視察
2月16日	経営計画発表、閉講式

**(10) あおもり型農村RMO育成事業（県単 R6～8）**

持続可能で活力ある農山漁村をつくるため、農泊の取組や地域の食を活用した活動などを地域づくりに生かしながら、地域経営体を中心とした稼ぐ力のある「あおもり型農村RMO」の育成に向けた取組を推進する。

**ア 地域マネジメント活性化事業**

地域担い手協議会等が行う農村RMOの育成を目指すための取組や地域課題の解決活動を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
十和田市地域農業再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>一本松集落における農村RMO推進に関するフォローアップ</li> <li>農村RMOの事例の共有と推進に関する意見交換</li> </ul>	129,370
横浜町地域農業再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外における町の特産品に関するPR活動と意見交換</li> </ul>	961,093
合 計		1,090,463

注) 令和8年3月末現在

**イ 農村RMO集落育成支援事業**

モデル集落が行うあおもり型農村RMOの要素（農用地保全、地域資源の活用、生活支援、経済活動、担い手育成、交流人口創出、地域組織の運営）に向けた新たな取組を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
赤沼町内会農村RMO推進検討会（十和田市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>農作業用機械の導入による作業の効率化</li> <li>地域の若手農業者との交流会の実施</li> </ul>	863,870
合 計		863,870

注) 令和8年3月末現在

**ウ 中間支援組織による伴走支援**

地域づくり活動に精通している中間支援組織に対して、モデル集落である赤沼集落（十和田市）のあおもり型農村RMOを目指した取組への伴走支援を委託する。

委託先	主な取組内容
NPO法人ひろだいりサーチ（十和田市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>むらづくりビジョンの推進</li> <li>集落内の農地の維持管理</li> </ul>

**(11) 指定種子検査事業（県単 H30～）**

主要農作物（稲・大豆・麦類）の優良な種子の生産を図るための検査を実施し、稲、大豆、麦類の高品質安定生産を推進する。

**ア 水稻**

(ア) 事業主体 十和田市水稻採種組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期（出穂期）：7月31日

第2期（糊熟期）：8月25日

【品種別ほ場指定面積】

（単位：a、筆）

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
まっしぐら(原種)	130	4	130	4
まっしぐら	9,376	260	9,376	260
ゆたかまる	958	25	958	25
あさゆき	156	4	156	4
計	10,620	293	10,620	293

合格率は100%。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】

（単位：点数、%、kg）

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
まっしぐら(原種)	2	2	0	98	7,000
まっしぐら	52	52	0	99	524,760
ゆたかまる	7	7	0	98	57,700
あさゆき	2	2	0	98	9,800
計	63	63	0	98	599,260

合格率は100%。発芽は良好であった。

**イ 大豆**

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼宮農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期（開花期）：8月7日

第2期（成熟期）：10月20日、24日、29日、11月5日、10日

【品種別ほ場指定面積】

（単位：a、筆）

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
おおすず	2,239	87	2,239	87

合格率は100%。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
おおすず	28	27	1	98	24,200

合格率は96.4%。発芽は良好であった。

ウ 小麦

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼営農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期(出穂期)：6月9日 第2期(糊熟期)：7月1日、4日

【品種別ほ場指定面積】 (単位：a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
ネバリゴシ	992	41	916	37

合格率は92.3%。

雑草、登熟ムラにより76aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
ネバリゴシ	9	9	0	98	13,500

合格率は100%。発芽は良好であった。

## 2 補助金・交付金事業

### (1) 農地利用効率化等支援交付金（青森県経営体育成支援事業 国庫R4～）

#### ア 事業目的

高齢化・人口減少が本格化する中で、農業者の減少や耕作放棄地の拡大がさらに加速化し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される。このため、地域において目指すべき将来の集約化に重点を置いた地域計画を策定し、その実現に向けて、経営改善に取り組む経営体に対して農業用機械・施設の導入等を支援する。

#### イ 事業内容

市町村	地区名	支援タイプ	事業内容	事業費等（千円）			経営体数
				総事業費	国費	融資額	
三沢市	北部地域地区	融資主体支援タイプ	オフセットポテトハーベスター1台	13,420	3,660	8,540	1
東北町	上北地区	融資主体支援タイプ	自脱型コンバイン(7条刈)1台	19,250	5,250	14,000	1
計				32,670	8,910	22,540	2

### (2) 鳥獣被害防止総合対策交付金（国庫 R7）

#### ア 事業目的

市町村鳥獣被害防止計画に基づき、被害防止対策の総合的かつ計画的な取組を実施することにより、鳥獣による農作物被害の軽減を図る。

#### イ 事業内容

(ア) 補助対象

箱わな購入、見回りの報酬、捕獲役務の賃金等

(イ) 実績

(単位：円)

事業実施主体	事業内容	事業費	補助金額
七戸町鳥獣被害対策協議会	推進事業 ・有害捕獲 ・被害防除	2,003,000	2,003,000
東北町鳥獣被害対策協議会		2,799,000	2,799,000

注) 令和8年3月末現在

**(3) 農業委員会交付金等 (国庫 S60～)****ア 事業目的**

農地利用の最適化等を推進するため、農業委員会が活動する経費について農業委員会交付金等を交付する。

**イ 事業内容**

## (ア) 交付金の区分

## a 農業委員会交付金 (S60～)

農業委員会職員給与、農業委員等の月例報酬に係る経費

## b 農地利用最適化交付金 (H28～)

最適化活動を行う推進委員等の報酬に係る経費、農業委員会が行う最適化活動に必要な物品購入等に係る経費

## c 機構集積支援事業費補助金 (H26～)

農業委員会の必須業務に必要な物品購入等に係る経費

農業委員等の資質向上に係る研修会等旅費、参考図書等購入に係る経費

## (イ) 事業費・交付金額

(単位：千円)

事業実施 主体	事業 区分	事業費	うち 交付金等	事業実施 主体	事業 区分	事業費	うち 交付金等
十和田市 農業委員会	a	56,701	6,473	横浜町 農業委員会	a	14,606	1,507
	b	7,694	7,694		b	4,332	1,813
	c	719	396		c	1,515	824
三沢市 農業委員会	a	7,973	2,668	東北町 農業委員会	a	22,730	3,374
	b	3,866	2,574		b	498	380
	c	2,862	1,472		c	202	81
野辺地町 農業委員会	a	2,251	1,251	六ヶ所村 農業委員会	a	3,968	2,565
	b	1,720	1,720		b	2,122	2,122
	c	85	82		c	—	—
七戸町 農業委員会	a	25,910	3,929	おいらせ町 農業委員会	a	16,984	2,418
	b	1,199	1,044		b	2,157	1,825
	c	2,398	606		c	554	303
六戸町 農業委員会	a	6,369	2,656	計	a	157,493	26,841
	b	9,301	5,959		b	32,889	25,129
	c	203	139		c	8,538	3,903

注) 事業費、交付金等は令和8年3月末現在、一は未実施。

※千円以下の端数により、合計と一致しない場合がある。

**(4) 新規就農者育成総合対策事業（国庫 R4～8）****ア 事業目的**

農業への人材の一層の呼び込みと定着を図ることを目的に、経営発展のための機械・施設等の導入を支援するとともに、経営が不安定な就農直後の所得を確保するための資金を交付する。

**イ 事業内容****(ア) 経営発展支援事業**

機械・施設、家畜の導入、果樹・茶改植、リース料等に要する経費を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：補助対象事業費の3/4を補助（補助対象事業費上限1,000万円）  
※経営開始資金と併用の場合は補助対象事業費上限500万円

(単位：円)

交付主体	補助金額	推進事業費	計	交付対象人数
十和田市	7,500,000	-	7,500,000	1人
計	7,500,000	-	7,500,000	1人

**(イ) 令和6年度世代交代・初期投資促進事業（初期投資促進タイプ）**

機械・施設、家畜の導入、果樹・茶改植、リース料等に要する経費を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：補助対象事業費の3/4を補助（補助対象事業費上限1,000万円）  
※経営開始資金と併用の場合は補助対象事業費上限500万円

(単位：円)

交付主体	補助金額	推進事業費	計	交付対象人数
十和田市	1,920,000	-	1,920,000	1人
六戸町	7,500,000	-	7,500,000	1人
計	9,420,000	-	9,420,000	2人

**(ウ) 経営開始資金**

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：年間最大150万円、最長3年間交付

(単位：円)

交付主体	経営開始資金	推進事業費	計	交付対象人数
十和田市	6,000,000	72,000	6,072,000	4人
三沢市	3,000,000	-	3,000,000	2人
計	9,000,000	72,000	9,072,000	6人

(エ) 農業次世代人材投資事業（経営開始型）※継続分のみ

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）

・支援額：年間最大150万円、最長5年間交付（単位：円）

交付主体	(経営開始型)	推進事業費	計	交付対象人数
十和田市	3,600,000	0	3,600,000	4人
計	3,600,000	0	3,600,000	4人

注) 事業費、補助金は令和8年3月末現在

### (5) 環境保全型農業直接支払交付金（国庫 R7～11）

地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくため、環境保全に効果の高い営農活動を普及推進する。

#### ア 環境保全型農業直接支払交付金（定額）

自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施に取り組む農業者団体に対し、取組面積に応じて交付金を交付する。

<取組実績>

市町村	対象となる営農活動	件数	面積(a)	事業費(円)	備考
十和田市	有機農業	3	1,336	1,870,400	国1/2以内 県1/4以内 市町村1/4 以内
三沢市	カバークロップ、 有機農業	2	2,668	1,442,900	
七戸町	カバークロップ、 有機農業	2	3,954	1,326,260	
六戸町	カバークロップ、 有機農業	1	90	126,000	
おいらせ町	カバークロップ、 有機農業	1	1,373	1,723,300	
計		9	9,421	6,488,860	

#### イ 環境保全型農業直接支払推進交付金（定額）

市町村が実施する確認事務などに係る経費に対して交付する。

（令和7年度は実施なし）

**(6) 経営所得安定対策等推進事業（国庫 H27～）****ア 事業目的**

国の経営所得安定対策を推進するため、市町村が行う推進活動に要する経費及び地域再生協議会が行う推進活動に要する経費について市町村が補助するのに要する経費を助成する。

**イ 補助率** 国10/10以内**ウ 事業内容**

## (ア) 補助対象

謝金、旅費、賃金及び共済費等、事務等経費、委託費、助成費

## (イ) 実績 (単位：千円)

実施主体名	事業費	補助金額	実施主体名	事業費	補助金額
十和田市	14,558	14,558	横浜町	2,508	2,508
三沢市	4,448	4,448	東北町	5,200	5,200
野辺地町	2,556	2,556	おいらせ町	4,383	4,383
七戸町	4,899	4,899	六ヶ所村	500	500
六戸町	2,025	2,025	合計	41,077	41,077

注) 令和8年3月末現在

**(7) 青森県所得向上プログラム実践支援事業（県単 R7～9）****ア 事業目的**

農業者自らが企画・提案するプランにより所得向上モデルを創出し、そのモデルを地域で共有・横展開することで農業者全体の所得を向上させる。

**イ 補助率**

(ア) ソフト事業 定額(上限50万円)

(イ) ハード事業 1/2以内(上限500万円、ただし、任意組織の場合は1,000万円)

**ウ 事業内容**

農業者が企画・提案した所得向上プランの実施にかかる経費を補助する。

(ア) 補助対象

ソフト事業：新技術等の導入、販売促進活動、ICTの導入等にかかる経費

ハード事業：農業機械、加工用機械、かん水施設の導入等にかかる経費

(イ) 実績

管内では9件が採択され、ハード事業で農業機械等の導入を行ったほか、普及指導員が所得向上プランに基づく経営改善に向けて伴走支援を実施した。

実施 件数	主な事業内容 (ソフト事業)	主な事業内容 (ハード事業)	事業費 (税抜) (千円)	補助金額 (千円)
9	営農管理システム導入、海外版HP作成、ドローン教習受講料など	トラクター、自動操舵システム、農業用ドローンなど	95,295	36,268

**(8) 青森県県外人材雇用受入環境整備支援事業 (県単 R7)**

**ア 事業目的**

農業分野における県外人材の受入拡大により、労働力の安定確保を図るため、農業者等が県外人材の居住環境の整備に要する経費について補助金を交付する。

**イ 補助率** 県1/3以内 (補助上限額：1,500千円)

**ウ 事業内容**

(ア) 補助対象

居住スペース、トイレ、浴室 (シャワー室)、空調設備、Wi-Fi設備 ほか

(イ) 実績

(単位：件、千円)

事業実施主体	件数	事業費(税抜)	補助金額	事業内容
法人畜産経営体 法人野菜経営体	6	20,012	4,961	間仕切り変更、壁・床・天井の修繕、調理器の整備、トイレ・浴室の整備、エアコン・ストーブ設置・Wi-Fi設備設置 ほか

注) 令和8年3月末時点の見込額

**(9) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単 H30～R7）****ア 事業目的**

野菜等産地の所得向上と産地力の強化を図るため、省力化等に必要な施設・機械、施設園芸の振興に必要な耐雪型ハウスの導入、高温対策に必要な資材・機材等の導入を支援する。

（県補助率：省力化型・施設園芸型は4分の1以内、高温対策型は3分の1以内）

**イ 事業内容**

市町村名	事業実施主体	対象作物	事業内容	事業量 (台)	事業費(税込) (千円)	補助金額 (千円)
三沢市	認定農業者	ごぼう	ロータリーカルチ	1	572	130
	認定農業者	ごぼう	トレンチャー	1	2,156	490
	認定農業者	ながいも	薬剤散布ドローン	1	1,760	400
	認定農業者	にんにく、 にんじん	自動操舵システム	1	1,485	337
	認定農業者	ながいも	種芋洗浄機	1	569	129
	認定農業者	ながいも、 ごぼう	フィールドロータリー	1	1,400	318
	認定農業者	ばれいしょ	茎葉処理機	1	759	172
三沢市計				7	8,701	1,976
東北町	認定農業者	にんにく、 ばれいしょ	ハイクリブーム	1	8,910	2,025
東北町計				1	8,910	2,025
おいらせ町	認定農業者	ながいも	乗用耕うん機	1	1,155	262
おいらせ町計				1	1,155	262
六ヶ所村	法人	だいこん	仕分機	1	2,200	500
	法人	ねぎ	根葉切り機	1	871	198
	法人	ねぎ	選別機	1	1,172	266
六ヶ所村計				3	4,243	964
合計				12	23,009	5,227

### 3 その他の事業

#### (1) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）（県単R6～8）

##### ア 事業目的

青森県基本計画「青森新時代」への架け橋の農林水産業が持続的に発展する社会に基づき、ながいもで儲かる産地づくりを進めるため、品種特性を維持するための種苗増殖方法の改善や新品種の早期導入のほか、省力栽培体系のシステム化と担い手の確保、育成に取り組む。

##### イ 事業内容（農業普及振興室実施部分）

###### (ア) 種苗増殖方法改善実証ほ

J Aが生産者に供給する種苗の増殖方法の改善を図るため、管内のJ Aおいらせ（三沢市、1か所）、J Aゆうき青森（東北町、2か所）に計3か所の実証ほを委託し、野菜研究所等から供給された成いもを100g前後の切いもにして、さらに、キュアリング処理等を行い植え付け、その後、簡易網室を設置して、むかごの着生状況及び成いもの収量を把握した。



種苗増殖改善実証ほ 5/27

###### (イ) 新品種栽培技術試験展示ほ

野菜研究所が育成した新品種「夢雪」について、新品種に合わせた栽培技術を組み立てるため、管内のJ A十和田おいらせ（十和田市、七戸町）、J Aおいらせ（三沢市、六戸町）、J Aゆうき青森（東北町2か所）の6か所に試験展示ほを委託し、農家慣行株間の「園試系6」や「庄司系」と、株間を18cmとした「夢雪」を比較し、各地域における新品種の特長や収穫量を把握した。



新品種等成績検討会 12/17

12月17日に、管内6か所の実証ほと種苗増殖改善実証ほの生産物を並べて、生産者、J A、関係機関による「新品種等成績検討会」を開催した。

###### (ウ) 地域の担い手の確保・育成

###### a ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催

J Aと連携して、ながいも担い手育成塾生に対して「ながいもプロフェッショナル養成所研修」への参加の呼びかけや「ながいも担い手育成塾」（12/17）を開催し、担い手農家のレベルアップにつなげた。

###### b 生産技術チェックシートを活用した指導

生産技術チェックシートを活用した個別巡回指導により、担い手農家の技術改善につなげた。

## (2) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（にんにく所得対策）（県単R6～8）

### ア 事業目的

青森にんにくのトップブランドの地位を将来にわたって堅持するため、労働力不足への対応やさらなる高品質安定生産に向けた取組を推進する。

### イ 事業実績（農業普及振興室が関わった部分）

#### (ア) にんにく新品種「青森福雪」の早期導入に向けた取組

令和4年度に品種登録された「青森福雪」への品種移行及び普及・定着を図るためにJA十和田おいらせ、JAゆうき青森及びJAおいらせに設置された現地実証ほ3か所及び試作ほ6か所について、生育状況・収量調査や栽培管理等の運営支援に協力した。各地域での品種特性等を確認するとともに生産者への理解を深めるため、植付講習会や共進会等にて収穫物を展示しながら新品種の特徴等を紹介した。

#### (イ) 生産者段階の優良種苗増殖技術の指導

「青森県にんにく優良種苗生産・供給指導指針」に基づき、生産者向けリーフレット「にんにくの種苗増殖のポイント」や「乾燥チェックシート」等を活用しながら講習会や巡回指導を実施した。講習会ではイモグサレセンチュウやウイルス媒介虫の適正防除と併せて種苗増殖専用ほ場の重要性を指導した。

乾燥機材の事前確認等を徹底するため、JA指導課窓口には各講習会資料のほか「にんにく乾燥チェックシート」や「乾燥後の障害事例集」を配布するとともに、新規就農者や乾燥障害（芯かび・腐敗球）が発生した生産者や新規就農者に対し、乾燥方法ごとの留意点を指導し、障害の発生要因や改善策を理解させた。

野菜研究所の指導支援を得ながら、管内の原種・採種ほ場等における有翅アブラムシ類のモニタリングを実施し、発生情報を提供しながら防除指導を展開した。また、優良種苗供給の支援活動としてウイルス感染株の抜き取り指導、合同ウイルス検査に参加した。



優良種苗増殖ほウイルス検査 5/23

#### (ウ) イモグサレセンチュウ被害防止技術の確立（診断と防除指導）

各時期の講習会において、線虫の生態、識別方法、防除対策を説明した結果、早期発見・初動防除の重要性が理解され、汚染が疑われる場合の検鏡診断を生産者及びJA営農指導員に呼びかけた。また、JA営農指導員並びに若手普及指導員を対象にイモグサレセンチュウ診断技術勉強会を7月下旬と8月下旬に計3回企画し、本線虫の識別方法等を習得させた。診断依頼結果を各JAと情報共有しながら、優良種苗の確保や防除対策の指導活動に役立てた（勉強会参加者：7/30～31=2名、7/31～8/1=4名、8/28～29=5名）。

## V 気象経過と農作物の生育状況

## 1 気象経過の概要と半旬別気象図

## (1) 気象経過の概要

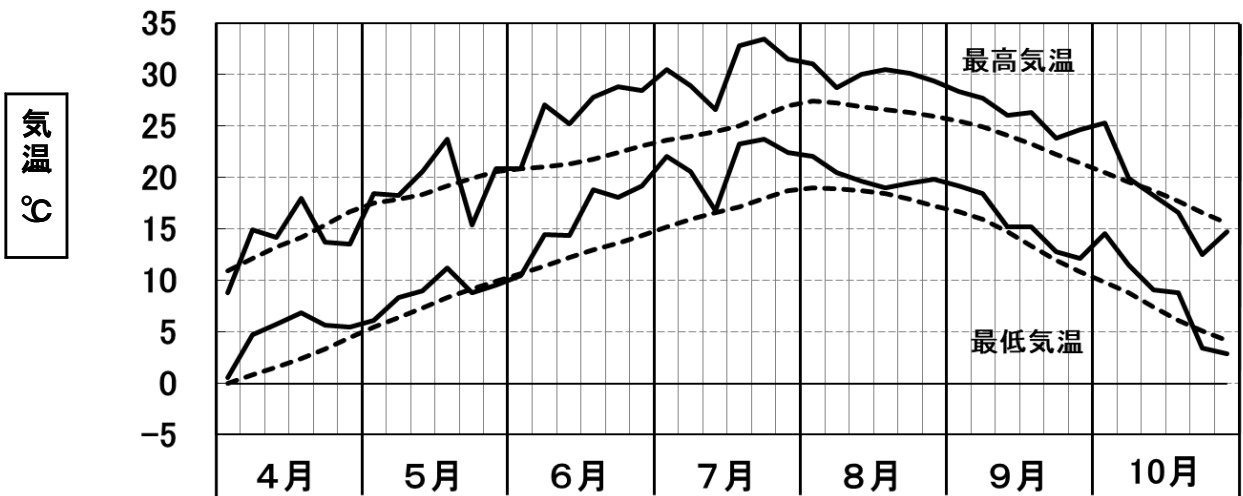
(青森地方気象台の資料に拠る)

月	概 要
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、第1、第5、第6半旬を除き平年を上回り、月平均気温は十和田市で8.9℃(平年差+0.9℃)、三沢市で8.9℃(平年差+0.6℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は十和田市は第2、第4半旬、三沢市は第2半旬を除き平年を下回り、月合計時間は平年を下回った。</li> <li>降水量は第4、第5半旬を除き平年を上回り、月合計降水量は平年を上回った。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、第5、第6半旬を除き平年を上回り、月平均気温は十和田市で14.2℃(平年差+0.8℃)、三沢市で13.7℃(平年差+0.5℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は、十和田市では第2、第5半旬、三沢市では第2、第3及び第5半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を下回った。</li> <li>降水量は、第2、第5半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を上回った。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、十和田市は第1半旬を除いて、三沢市は期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で21.0℃(平年比+4.2℃)、三沢市で20.4℃(平年比+4.1℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は、第5半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。</li> <li>降水量は、第6半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。</li> <li>東北北部の梅雨入りは平年より1日早い6月15日だった。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で25.7℃(平年差+5.1℃)、三沢市で25.5℃(平年差+5.2℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は第1半旬を除き平年並または平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。</li> <li>降水量は第1半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。</li> <li>東北北部の梅雨明けは平年より9日早い7月19日だった。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で24.6℃(平年差+2.5℃)、三沢市で25.1℃(平年差+2.9℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は、第2半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。</li> <li>降水量は、第1、第2及び第4半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年並だった。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で20.7℃(平年差+2.2℃)、三沢市で21.3℃(平年差+2.0℃)と平年を上回った。</li> <li>日照時間は、十和田市では第1半旬、三沢市では第1、第2半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。</li> <li>降水量は、第1、第4半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温は、第5、第6半旬を除き平年を上回り、月平均気温は十和田市で12.8℃(平年差+0.5℃)、と平年を上回り、三沢市で13.3℃(平年差±0℃)と平年並であった。</li> <li>日照時間は、十和田市では第1、第6半旬、三沢市では第1半旬を除き平年を下回り、月合計時間は平年を下回った。</li> <li>降水量は、第4、第6半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年を下回った。</li> </ul>

(2) 半旬別気象図① <十和田アメダス>

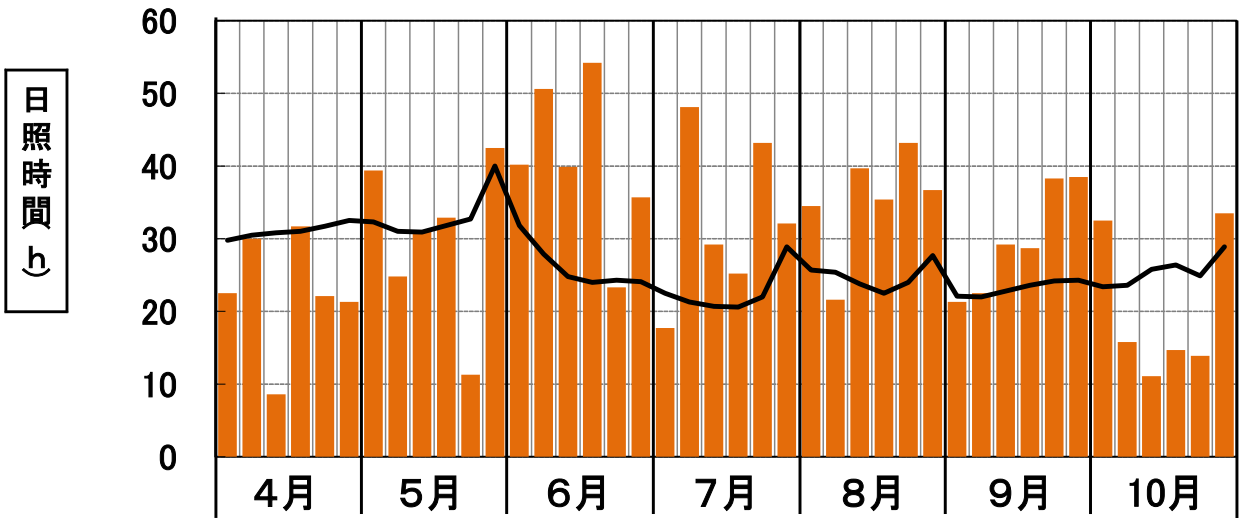
ア 気温 (半旬平均)

(本年 — 平年 - - - - )



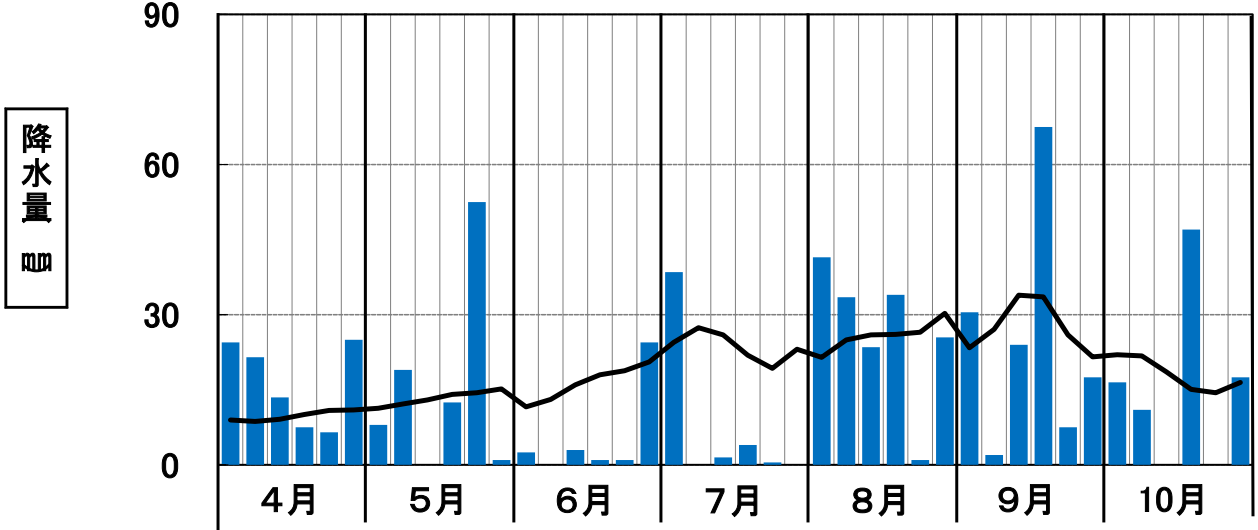
イ 日照時間 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 — )



ウ 降水量 (半旬合計)

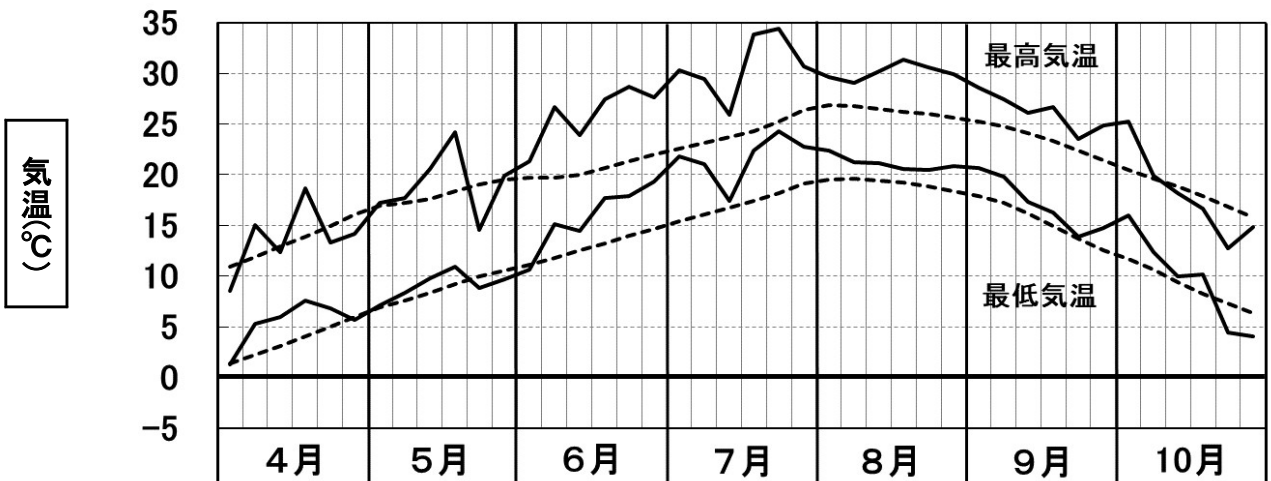
(本年 ■ 平年 — )



(3) 半旬別気象図② <三沢アメダス>

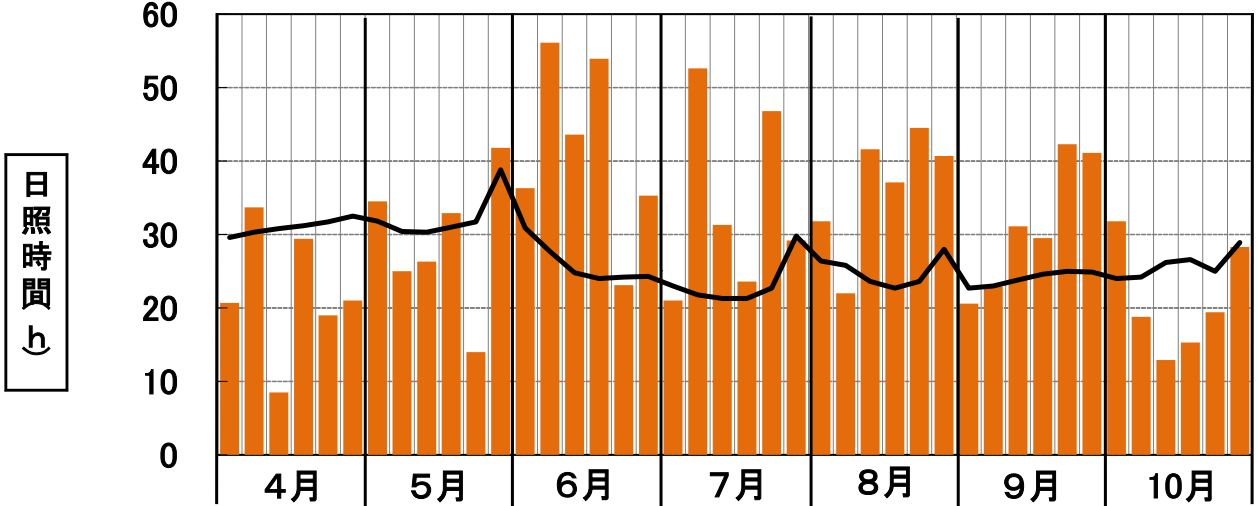
ア 気温 (半旬平均)

(本年 — 平年 - - - - )



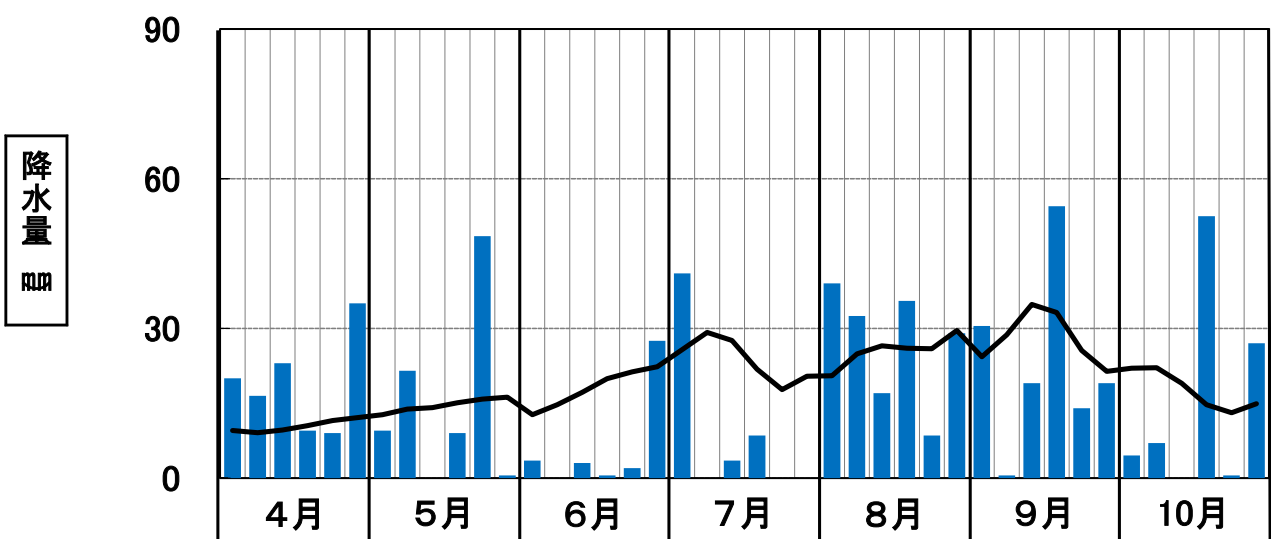
イ 日照時間 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 — )



ウ 降水量 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 — )



## 2 水稲

### (1) 育苗期～田植期

- ・出芽、育苗時の生育は概ね順調であった。
- ・上北管内の田植最盛期は平年より1日遅い5月22日であった。田植後の5月第6～6月第1半旬に低温で代枯れ等がみられたが、天候の回復とともに生育も回復した。表層剥離やアオミドロの発生がみられたが、生育への影響は少なかった。

表-1 管内田植進捗状況

作付面積 (ha)	田植え (月/日)			最盛期比較	
	始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
7,634	5/14	5/22	5/30	遅1日	遅4日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

### (2) 活着期～出穂期

- ・6月第2半旬以降、生育期間中はかなりの高温多照で推移し、生育は旺盛となった。管内の「まっしぐら」県生育観測ほにおける6月20日現在の生育は、草丈が43.8cm(平年比102%)、茎数は253本/m<sup>2</sup>(同109%)、葉数が7.9枚(平年差+0.5枚)であった。
- ・7月に入っても気温、日照時間は平年を上回って推移し、7月15日現在の生育は、草丈が80.5cm(平年比121%)、茎数は331本/m<sup>2</sup>(同80%)、葉数が11.6枚(平年差+0.9枚)であった。また、幼穂形成期は平年より10日早い7月2日、出穂期は平年より9日早い7月26日であった。さらに、巡回調査による上北管内の出穂最盛期は平年より9日早い7月26日であった。

表-2 県生育観測ほの生育状況(6月20日～出穂期)

品 種	年次	6月20日				6月30日			
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m <sup>2</sup> 茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m <sup>2</sup> 茎数 (本)
まっしぐら	本年	43.8	12.2	7.9	253	61.9	17.4	9.7	355
	平年	42.9	11.0	7.4	232	50.6	18.0	8.9	375

品 種	年次	7月15日				幼 穂 形 成 期 (月/日)	出穂期 (月/日)
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m <sup>2</sup> 茎数 (本)		
まっしぐら	本年	80.5	16.3	11.6	331	7/ 2	7/26
	平年	66.5	20.3	10.7	416	7/12	8/ 4

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R6年の平均値

表-3 管内出穂状況

出穂 (月/日)			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
7/23	7/26	7/29	早9日	早2日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が出穂した日

**(3) 登熟期～成熟期**

- ・登熟期間中、8月は第5半旬以外は降水量が平年並で、最高気温、最低気温ともに平年を上回っていたことから、登熟は順調に進んだ。刈取り時期は前年同様大幅に早まり、刈取最盛期は平年より11日早い9月24日であった。
- ・成熟期の稈長は79.7cm（平年比105%）で平年より長く、穂長は19.2cm（同106%）で長く、穂数は326本/m<sup>2</sup>（同91%）で少なかった。1穂粒数は91.7粒（同108%）で多く、m<sup>2</sup>粒数は29,700粒（同98%）と平年並となった。登熟歩合は91.9%で平年を6.7ポイント上回った。

表-4 管内稲刈進捗状況

刈取り（月/日）			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
9/15	9/24	10/6	早11日	早2日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

表-5 県生育観測ほの生育状況（成熟期）

品 種	年次	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	m <sup>2</sup> 穂数 (本)	1穂 粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 粒数 (×100粒)	登熟 歩合 (%)
まっしぐら	本年	79.7	19.2	16.0	326	91.7	297	91.9
	平年	75.6	18.1	17.5	359	85.3	304	85.2

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R6年の平均値

**(4) 病害虫発生状況**

- ・本年は、管内のいもち病の発生は平年より少なかった。
- ・紋枯れ病の発生が増加傾向にある。
- ・7月から8月が高温であったことから、斑点米カメムシ類の発生量が多かった。

**(5) 収量・品質**

ア 県生育観測ほの収量・品質

- ・生育観測ほにおける「まっしぐら」の平均収量は637kg/10a（平年比104%）で、玄米千粒重は23.3g（同101%）であった。
- ・カメムシ類による斑点米の発生がみられたが、検査等級は1等であった。

表-6 県生育観測ほの収量等

品 種	年次	全 重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精粒重 (kg/10a)	玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
まっしぐら	本年	1,522	665	799	637	24	23.3
	平年	1,548	695	802	612	36	23.0

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R6年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

イ 作柄概況

- ・東北農政局が公表した令和7年産水稻の収穫量によると、「南部・下北地帯」の10a当たり収穫量（生産者が使用しているふるい目幅1.9mmベース）は592kg/10aであった。

表-7 作柄表示地帯別収穫量

項目 地帯	10 a 当たり収穫量(kg)			
	R7		R6	R5
	ふるい目幅1.9mm	ふるい目幅1.7mm		
青森県	596	619	623	614
青森地帯	588	613	604	599
津軽地帯	599	623	637	635
南部・下北地帯	592	613	598	569

※R5、R6の10a当たり収穫量はふるい目幅1.70mmベース、R7から生産者が使用しているふるい目幅ベース（青森県は1.90mm）も発表  
 ※東北農政局 令和7年度12月12日公表

ウ 検査状況

- ・管内JA取扱のうるち玄米の1等米比率は93.4%であった。
- ・本年の落等の要因は、斑点米カメムシ類による「着色粒」、玄米の皮が厚い、溝が深いといった「整粒不足」が挙げられている。

表-8 検査状況（うるち玄米）

項目 地域	1等米比率 (%)				
	R7年産米	R6年産米	R5年産米	R4年産米	R3年産米
県全体	92.0	93.5	68.2	92.2	91.7
上北管内	93.4	92.8	55.0	95.6	93.6

※東北農政局 令和7年11月28日公表（令和7年10月31日現在の速報値）。  
 ※上北管内は管内JAからの聞取りによる推定値（12月末現在）

### 3 畑作物

#### (1) 小麦（ネバリゴシ）

##### ア 生育状況

##### (ア) は種期～開花期

- ・は種作業は9月下旬頃から始まり、大豆後作のは種は10月下旬となった。  
出芽及びその後の生育は良好で、県生育観測ほの越冬前の草丈、葉数及び茎数は  
平年並であった。
- ・3月10日頃まで雪がみられ、3月16日からの降雪により、県生育観測ほの幼穂形  
成期は平年より10日遅い4月9日で、越冬後の草丈、茎数は平年より劣った。
- ・出穂期は平年より2日早く、開花期は1日遅かった。

##### (イ) 登熟期～成熟期

- ・県生育観測ほの成熟期は平年より4日早い7月1日であった。成熟期の生育は、  
稈長・穂長ともに平年より長く、m<sup>2</sup>当たり穂数は平年より少なかった。
- ・十和田市における小麦の刈取り始めは、平年より4日早い7月1日で、穂発芽の  
発生はみられなかった。

##### (ウ) 病虫害発生状況

- ・越冬後の雪腐病の発生は、一部で平年より発生が多いほ場がみられた。
- ・うどんこ病は少程度発生していたが、生育への影響はみられなかった。

表-1 県生育観測ほの生育状況（十和田市相坂）

年次	は種期 (月/日)	幼穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	成熟期の生育			
						稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒/本)
本年	10/ 6	4/ 9	5/18	5/28	7/ 1	84.3	10.6	624	44.9
平年	9/29	3/30	5/20	5/27	7/ 5	83.5	8.0	669	37.4
前年	10/ 7	4/ 1	5/12	5/19	6/28	84.6	8.5	589	43.1

※平年は、H23～R 6年の平均値

##### イ 収量・品質等

県生育観測ほの収量は、子実重、千粒重、容積重とも平年を下回った。

表-2 県生育観測ほの収量等（十和田市相坂）

年次	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
本年	496	32.1	807
平年	509	33.6	824
前年	640	36.1	848

※平年は、H23～R 6年の平均値

(2) 大豆（おおすず）

ア 生育状況

(ア) は種期～開花期

- ・は種作業は5月下旬から始まり、最盛期は6月10日頃となった。出芽は良好であった。
- ・は種後の気温は高く推移し、生育は順調であった。県生育観測ほの開花期は、平年より6日早い7月23日であった。草丈は平年より大幅に長かった。

(イ) 登熟期～成熟期

- ・期間を通して平年より気温が高く経過した。一部の生育の旺盛なほ場で、倒伏が発生した。
- ・9月10日の調査では、県生育観測ほの草丈は117.7cmで平年より長く、葉数は平年並であった。成熟期は平年より2日遅い10月14日であった。
- ・管内の刈取作業は、刈取最盛期は平年並の11月6日、刈取終は平年より3日遅い11月19日であった。

(ウ) 病虫害発生状況

- ・紫斑病の発生は平年より少なく、べと病の発生は平年より多かった。
- ・マメシンクイガの発生は平年並で、カメムシによる被害が平年より多かった。

表-3 県生育観測ほの生育ステージ（十和田市赤沼）

年次	は種期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	7月10日		8月10日		9月10日	
				草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)
本年	6/ 5	7/23	10/14	61.5	6.4	111.4	13.3	117.7	13.3
平年	6/ 1	7/29	10/12	37.3	5.3	92.4	13.3	98.1	13.7
前年	6/ 9	7/26	10/15	33.6	5.0	97.0	13.4	90.8	13.4

※平年は、H22～R 6年の平均値

イ 収量・品質等

県生育観測ほの10a当たり収量は平年より65kg多い315kg（平年比126%）だった。分枝数は平年よりかなり少なく、稔実莢数は平年並であった。百粒重は平年より重かった。

表-4 県生育観測ほの収量等（十和田市赤沼）

年次	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	分枝数 (本/本)	稔実莢数 (個/本)
本年	315	40.6	1.6	30.4
平年	250	35.2	2.6	30.8
前年	361	37.3	2.0	32.3

※平年は、H22～R 6年の平均値

## 4 野菜

### (1) ながいも

- ・一般農家の植付作業は、4月末頃から始まった。植付の最盛期は、春掘りの遅れや降雨の影響により遅れて進み、JAゆうき青森管内では5月29日頃、上北管内全体でも5月下旬と例年の5月20日頃から7日から10日遅れとなった。植付終了は、例年並の6月15日頃であった。
- ・生育観測ほの植付は5月14日で、平年より6日遅かった。5月中旬の気温が平年より高く、好天で経過したことから、萌芽期は6月8日で平年より3日遅かった。
- ・生育観測ほの新しいもの生育は、適度に降雨もあり、さらに昨年引き続き高温で推移したことから7月10日から8月10日までいも長、いも重、いも径とも平年を大幅に上回って推移した。9月10日時点ではいも径が平年並であったものの、いも長、いも重は平年を大幅に上回った。
- ・一般農家のほ場でも、適度な降雨と高温により生育は概ね順調に推移した。高温が続いたことから、いも長が長く太さもあり収量は多くなっている。品質的には、平いも・コブいもの発生が多かった。今年も前年と同様にいも長が長いため、収穫作業では、センター掘機などの掘り取り時に「折れ」や「欠損」が前年と同様に多い傾向となった。
- ・生育観測ほにおける収穫時の調査では、いも長、いも重、いも径とも平年を大きく上回り、長さ、太さがある形状となった。収穫量は7,374kg/10aと非常に多く、品質ではA品率は75.5%と平年を上回った。
- ・病害は、9月に入り葉渋病、炭疽病の発生がみられた。害虫では7月上旬からナガイモコガやコガネムシ類の食害葉がみられ、9月以降、ナガイモコガの食害やカメムシ類による葉枯れが目立つほ場が散見された。

表-1 生育観測ほの生育状況（東北町滝沢平）

年次	植付期 (月/日)	萌芽 揃期 (月/日)	つるの ネット頂 到達日	7月10日			8月10日		
				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
本年	5/14	6/ 8	7/ 1	19.0	15.0	13.4	52.0	487.3	46.3
平年	5/ 8	6/ 5	7/ 7	14.1	7.7	8.6	44.4	284.6	40.2
前年	5/11	5/29	6/29	18.4	11.8	11.6	57.8	577.5	49.6

年次	9月10日			10月10日			収穫期 (月/日)
	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)	
本年	75.5	1,128	52.2	92.0	1,960	62.8	11/18
平年	65.7	805	52.2	76.5	1,145	58.2	11/19
前年	86.1	1,113	56.9	94.1	1,337	58.4	11/13

※平年は、H27～R6年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

表-2 生育観測ほの収量等 (東北町滝沢平)

年次	全 長 (cm)	いも長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	総収量 (kg/10a)	A品率 (%)
本年	94.2	77.6	1,583	61.6	7,374	75.5
平年	75.3	55.5	1,152	56.2	4,169	56.6
前年	90.4	70.3	1,106	46.9	4,160	62.6

(2) にんにく

- ・生育観測ほの植付日は平年より17日遅い10月17日であった。一般ほ場の植付作業は例年並の9月26日頃から始まり、10月10日頃を最盛期に10月下旬で終了した。上北管内の雪解けは3月20～28日と概ね平年並、その後の降水量が平年より多く、地温の上昇が抑制されたため、管内のりん片分化期は平年よりやや遅い4月18～23日に確認された。5月の生育は概ね平年よりやや下回り、6月上旬のりん球の肥大も平年を下回った。収穫日(積算温度1000℃到達日)は平年より3日遅い6月23日頃となり、収穫作業は6月18日頃から始まり、6月30日頃に終了した。
- ・りん球の肥大にはほ場間差があるものの、収量は概ね平年並～やや下回り、2L規格が平年より少ない状況である。なお、A品率は50～80%と幅があるが、主な落等原因は片突出や春腐病に由来する着色や割れ等である。乾燥作業は、収穫後半の大雨や7月3半旬の東風や降雨の影響により乾燥が停滞し遅れ気味となったが、概ね7月5半旬頃に終了した。

表-3 生育観測ほの生育状況 (七戸町榎林)

年次	植付期 (月/日)	4月10日			りん片 分化期 (月/日)	5月10日		
		草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)		草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)
本年	10/17	27.2	4.4	-	4/21	65.6	7.8	18.6
平年	9/30	32.6	4.6	14.4	4/17	72.0	7.7	20.3
前年	10/17	31.1	4.8	-	4/17	75.3	8.4	17.8

※平年はH27～R6年の平均値

表-4 生育観測ほの生育状況・収量 (七戸町榎林)

年次	6月10日					収穫期 (月/日)	乾 燥 収 量 (kg/10a)	2L+ L率 (%)	A品率 (%)
	草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)	球径 (mm)	球重 (g)				
本年	89.7	8.4	18.9	53.4	74.8	6/23	880	54.5	72.4
平年	82.0	7.6	20.1	60.7	91.9	6/21	1,018	79.7	70.7
前年	78.7	8.1	16.4	60.3	88.7	6/20	1,038	83.9	54.0

※平年はH27～R6年の平均値

**(3) ねぎ**

- ・生育観測ほの定植期は4月10日で、平年より3日早かった。6～8月の乾燥の影響によって生育は草丈が平年を下回って推移したものの、茎径は平年並に推移した。収穫期は平年より2日早い8月19日で、収量は平年をやや下回った（平年比96%）。
- ・一般農家の定植は例年並の3月下旬から始まった。6～8月の乾燥の影響で、葉先枯れ症状やさび病がみられた。また、軟腐病の発生ほ場が一部にみられたほか、アザミウマ類やネギハモグリバエ類、シロイチモジヨトウによる被害がみられた。

表-5 生育観測ほの生育状況（十和田市洞内）

年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日	
			草丈 (cm)	茎径 (mm)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	草丈 (cm)	茎径 (mm)
本年	1/20	4/10	49.1	11.1	80.6	21.0	92.3	25.8
平年	1/27	4/13	52.6	10.5	89.6	21.5	106.3	26.8
前年	1/23	4/2	48.1	9.3	72.1	16.4	91.0	22.7

※平年は、R2～5年の平均値

※R6年から3粒まきのため、平年値は参考

表-6 生育観測ほの収量等（十和田市洞内）

年次	収穫期 (月日)	全長 (cm)	調製茎径 (mm)	軟白長 (cm)	調製1本重 (g)	収量 (kg/10a)
本年	8/19	97.6	20.1	30.3	152.1	3,876
平年	8/21	99.9	21.5	26.7	198.5	4,047
前年	8/20	98.1	23.6	28.8	167.6	4,161

**(4) ごぼう**

- ・生育観測ほのは種期は平年より12日遅い5月14日であった。発芽は良好であったが、は種期が大幅に遅れたことから6月は双葉が確認できる程度であった。その後の生育は順調に推移し、7月には葉数が平年を上回り、9月は葉数に加え、草丈も平年を上回る生育となった。収穫期は平年より1日早い9月29日で、収量は10a当たり3,380kgと平年を上回った。品質はA品率が96%で平年を大幅に上回った。
- ・一般ほ場では5月中旬頃までには種したほ場の生育は順調であったが、5月下旬から6月には種したほ場では、高温・乾燥の影響により発芽不良やその後の生育ムラが目立った。収穫物は全体として、品質は良好だが規格は例年に比べてやや細かった。

V 気象経過と農作物の生育状況

表-7 生育観測ほの生育状況（三沢市猫又）

年次	は種期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日		9月10日	
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
本年	5/14	-	-	39.1	4.3	98.4	4.0	119.5	4.0
平年	5/ 2	10.9	1.9	65.5	3.9	114.2	2.9	97.8	3.4
前年	5/16	-	-	28.1	4.0	106.2	3.4	106.3	3.1

※平年は、H27～R 6の平均値

※6月10日の平年値は、は種期が大幅に遅れたことからH27～R 5の平均値とした

表-8 生育観測ほの収量等（三沢市猫又）

年次	収穫期						
	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (mm)	調製根重 (g)	収量 (kg/10a)	A品 (%)	B品 (%)
本年	9/29	88.2	21.7	227.7	3,380	96	0
平年	9/30	84.1	20.4	205.0	3,062	76	21
前年	10/ 9	91.6	17.9	187.8	2,788	72	20

※平年は、H27～R 6の平均値

(5) 春夏にんじん

- ・生育観測ほのは種期は、3月25日で前年より1日早かった。生育は、4月の降雨と日照不足で停滞、5～6月の高温・乾燥の影響で根長が長くなった。
- ・収穫期は前年より3日遅い7月4日で、収量は10a当たり5,619kgで前年を上回った。規格はL～Mが中心だが、2Lの割合も高かった。品質は軽度のこぶ症がみられたことからA品率が前年より低かった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、例年並の3月10日から始まり、最盛期は3月20日頃であった。べたがけ栽培のは種作業は、3月25日から始まり最盛期は4月13日頃、終わりは4月20日頃であった。
- ・生育は生育観測ほと同様の推移をし、収穫始めは例年よりも5日程度遅い6月24日で、品質は一部で曲がりやこぶ症、食害がみられたほか、細めではあるが概ね良好であった。抽台株、裂根、しみ症等の発生は少なかった。

表-9 生育観測ほの生育状況（六戸町下吉田：べたがけ栽培）

年次	は種期 (月/日)	5月10日		6月10日				
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)
本年	3/25	7.4	3.0	45.6	8.4	18.0	2.7	42.6
平年	3/13	21.1	5.3	60.3	8.6	18.0	3.9	105.2
前年	3/26	12.4	3.6	40.3	7.5	21.1	2.9	53.0

※平年は、H26～R 5年の平均値（トンネル栽培のため参考値）、R 6からべたがけ栽培

表-10 生育観測ほの収量等（六戸町下吉田：べたがけ栽培）

年次	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合 (%)						
						A品	B品	3L	2L	L	M	S
本年	7/ 4	18.5	4.7	163.9	5,619	75	25	3	25	33	36	3
平年	6/21	16.9	4.7	164.0	5,167	85	6	2	21	41	24	3
前年	7/ 1	17.0	4.6	149.2	5,170	95	0	0	8	42	42	2

※平年は、H26～R 5年の平均値（トンネル栽培のため参考値）

※R 6からべたがけ栽培

(6) ばれいしょ

- ・生育観測ほの植付期は平年より4日早い3月25日で、萌芽期は平年より7日遅い5月8日であった。生育は4月の降雨と日照不足で停滞気味であったが、6月以降は概ね順調であった。着蕾期は平年より8日、開花期は平年より2日遅かった。枯凋期は7月10日で平年より6日早かった。
- ・総いも数は10a当たり51,515個で平年より大幅に多く、販売重は10a当たり4,010kgで平年よりやや少なかった。規格割合は平年同様L、M中心だったが、2Lの割合が平年よりやや低く、品質は5月末～6月末にかけての高温・乾燥の影響から二次生長（ラセット粗皮）が多かった。
- ・一般農家のマルチ栽培の植付作業は、例年よりも7日程度遅い3月24日から始まり、最盛期は4月上旬であった。収穫は7月中旬から始まり、品質は生育観測ほ同様に、二次生長が多くみられた。
- ・病害虫は、疫病の発生はほとんど認められず、7月からアブラムシ類の発生がみられた。

表-11 生育観測ほの生育状況（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	5月10日		6月10日	
						草丈 (cm)	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)
本年	3/25	5/ 8	5/31	6/ 6	7/10	6.4	2.6	56.3	2.6
平年	3/29	5/ 1	5/23	6/ 4	7/16	13.7	2.4	65.6	2.2
前年	3/25	5/ 3	5/22	5/31	7/11	18.2	2.1	55.0	2.2

※平年は、H27～R 6年の平均値

表-12 生育観測ほの収量等（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	総いも数 (個/10a)	販売重 (kg/10a)	規格別割合 (%)					
			3L	2L	L	M	S	外
本年	51,515	4,010	0	11	36	32	10	10
平年	43,804	4,147	5	16	34	28	9	8
前年	35,714	3,659	4	21	41	23	6	5

※平年は、H27～R 6年の平均値

(7) 春だいこん

- ・生育観測ほのは種期は、降雨の影響により平年より4日遅い3月23日となった。生育は、は種後の気温がやや低く推移したほか、降雨の影響で平年より遅れ、5月10日の生育は、葉長が31cmで平年より短く、根重が122.7gで平年より大幅に軽かった。収穫期は5月29日と平年より3日遅く、根長は34cmで平年よりやや短く、根重は1,117gでやや軽く、収量は10a当たり7,479kgで平年よりやや少なかった。規格は2L、Lが中心で、品質はA品が81%となった。B品は19%と平年よりも多く、曲がりが必要であった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、例年並の3月9日から始まり3月末頃に終了した。トンネル栽培の収穫は例年並の5月20日から始まった。品質はやや細く、短い傾向で、乾燥年に発生しやすいゴミムシ類による被害も一部でみられた。

表-13 生育観測ほの生育状況（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	は種期 (月/日)	4月10日		5月10日		
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
本年	3/23	-	-	31.0	16.5	122.7
平年	3/19	7.9	2.4	34.9	20.9	321.1
前年	3/28	-	-	30.9	18.0	282.6

※平年は、H27～R6年の平均値

※4月10日の平年値は、前年が本葉抽出程度のためH26～R5の平均値とした

表-14 生育観測ほの収量等（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	収穫期 (月/日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合 (%)				
						A品	B品	2L	L	M
本年	5/29	34.0	7.7	1,117	7,479	81	19	34	45	21
平年	5/26	35.2	7.8	1,141	7,640	90	8	36	42	14
前年	5/27	36.5	7.7	1,107	7,151	81	19	40	40	17

※平年は、H27～R6年の平均値

(8) 秋冬だいこん

- ・生育観測ほのは種期は平年より5日遅い8月11日で、出芽状況は良好であった。
- ・収穫期は平年より5日早い10月6日で、地上部は葉長が平年をやや上回り、葉数は大幅に上回った。地下部は根径が平年を上回り、根長及び根重は平年を大幅に上回った。
- ・収量は10a当たり9,057kgと平年を大幅に上回ったが、ほ場が赤土で粘り気が強かったことから、尻部の曲がりによるB品が重量比71.5%と、平年と比較し非常に多くなった。
- ・一般ほ場では、キスジノミハムシ及びアブラムシ類による被害がみられた。

表-15 生育観測ほの生育状況・収量等（東北町栗山添）

年次	は種期 (月/日)	9月10日			収 穫 期						
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)	収穫期 (月/日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)
本年	8/11	35.0	19.9	117.6	10/ 6	47.4	26.1	42.9	7.6	1,396	9,057
平年	8/ 6	30.0	14.2	62.3	10/11	45.5	22.1	34.3	7.1	1,045	7,979
前年	8/ 8	27.8	12.5	42.7	10/ 7	45.2	20.4	38.9	6.9	1,159	8,527

※平年は、H27～R 6年の平均値

※R 4年から担当農家を変更したため、平年値は参考

## 5 花き

- 管内ではカーネーション、アスター、クジャクソウ等が栽培されているが、今年の生育は順調だった。

## 6 果樹

### (1) りんご

- ・「ふじ」の発芽日は、平年に比べ2日早く、前年並であった。落花日は平年より3日遅く、前年より13日遅かった。
- ・また、11月1日の果実肥大は、8.4cmと平年を下回った。

表-1 生育ステージ調査（品種：ふじ、十和田市米田）

場所\項目		発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
十和田市（本年）		4/ 5	4/15	5/ 9	5/ 4	5/19
十和田市（平年）		4/ 7	4/17	5/ 7	5/11	5/16
十和田市（前年）		4/ 5	4/14	4/29	5/ 4	5/ 6
五戸	県南果樹部(本年)	4/ 4	4/17	5/ 8	5/11	5/18
	県南果樹部(平年)	4/ 7	4/19	5/ 9	5/13	5/19
	県南果樹部(前年)	4/ 5	4/14	4/28	5/ 2	5/10
黒石	りんご研(本年)	4/ 7	4/14	5/ 5	5/10	5/16

※十和田市の平年値はH19～R 6年の18年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R 2年（20年間）

表-2 果実肥大調査（品種：ふじ、横径、十和田市米田）（単位：cm）

場所\月日		6月1日	7月1日	8月1日	9月1日	10月1日	11月1日
十和田市（本年）		1.5	4.1	6.0	7.3	8.1	8.4
十和田市（平年）		1.9	4.3	6.3	7.6	8.3	8.7
十和田市（前年）		2.3	4.8	6.7	7.7	8.5	8.7
五戸	県南果樹部(本年)	1.5	4.1	6.0	7.7	8.4	8.7
	県南果樹部(平年)	1.3	3.9	6.0	7.6	8.5	8.9
	県南果樹部(前年)	2.3	4.8	6.8	8.2	8.9	9.2
黒石	りんご研(本年)	2.0	4.5	5.6	7.3	8.1	8.6

※十和田市の平年値はH29～R 6年の8年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R 2年（20年間）

## 7 飼料作物

### (1) 牧草

- ・生育観測ほの消雪日は3月29日で平年より7日遅かった。
- ・4月から5月上旬にかけて平年よりも平均気温が高かったが、日照時間が少なかったことなどから、一番草の乾物収量は10a当たり291kgで平年を下回った。
- ・6月から7月上旬にかけて平均気温が平年を上回り、降水量が少なかったことから、二番草の乾物収量は10a当たり177kgで平年を下回った。
- ・8月は平年以上の高温が続き、まとまった降水量があったことから、三番草の乾物収量は10a当たり224kgで平年を上回った。
- ・生育観測ほの年間乾物収量は10a当たり692kgで平年を下回った。

表-1 十和田市（米田）生育観測ほ（オーチャードグラス）

年次	消雪日 (月/日)	一番草		二番草		三番草		年間 乾物収量 (kg/10a)
		刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	
本年	3/29	5/23	291	7/18	177	9/12	224	692
平年	3/22	5/22	381	7/16	217	9/13	185	784
前年	3/26	5/17	378	7/16	245	9/11	154	777

※平年値：H26～R 6年の10年間の平均値

### (2) 飼料用とうもろこし

- ・生育観測ほのは種日は、平年より2日早い5月16日、出芽は平年より3日早い5月25日であった。7月の平均気温が高く日照時間も多かったため生育が促進され、刈取日は平年より11日早い9月10日であった。
- ・収量調査の結果、稈長は319cmと平年よりも長く、乾物収量は全重が10a当たり2,409kg、TDN収量は10a当たり1,733kgとなり、平年より大幅な増収となった。

表-2 東北町（北栄）生育観測ほ（品種：スノーデント110日）

年次	は種日 (月/日)	出芽期 (月/日)	絹糸 抽出期 (月/日)	刈取日 (月/日)	収量調査結果				
					稈長 (cm)	乾物収量		乾物率 (%)	TDN収量 (kg/10a)
						全重 (kg/10a)	雌穂重 (kg/10a)		
本年	5/16	5/25	7/27	9/10	319	2,409	1,432	36.7	1,733
平年	5/18	5/28	8/ 6	9/21	269	1,571	887	31.8	1,111
前年	5/24	6/ 2	8/ 4	9/10	269	1,918	913	27.1	1,311

※平年値：H30～R 6年の7年間の平均値

## 8 気象災害

### (1) 災害概況

- ア 令和7年7月30日8時25分頃、ロシア・カムチャツカ半島東方沖（北緯52.4度、東経160.2度）を震源とするMw8.8の地震が発生した。気象庁から8時37分津波注意報、9時40分津波警報が発令され、同日20時45分津波警報解除。上北地域に被害なし
- イ 令和7年8月20日からの大雨の影響で、十和田市休屋・宇樽部地区に記録的大雨があり（確認され次第記載されました）被害があった。
- ウ 令和7年12月8日23時15分頃、青森東方沖（北緯40.6度、東経142.2度）を震源とする最大震度6強、Mw7.5の地震があり、23時17分津波注意報、23時17分津波警報が発令された。  
令和7年12月9日6時20分 津波注意報全て解除となった。  
令和7年12月9日2時、北海道・三陸沖後発地震注意情報発表がされ、令和7年12月16日0時に終了となった。  
その後、農業協同組合共同利用施設の内壁が落下する等の被害が確認された。
- エ 令和7年12月27日から2月中旬にかけ、記録的な寒波が襲来し、全国的に日本海側を中心として豪雪となった。青森市では、記録的な豪雪となり、県では令和8年1月29日に令和8年青森県豪雪対策本部を設置した。

### (2) 災害発生による被害額等

- ア 令和7年8月20日の大雨による被害 被害額：13,750,000千円  
十和田市（旧十和田湖町）農業関係被害 用水路隧道の土砂堆積
- イ 令和7年12月8日青森東方沖地震による被害(令和8年3月15日現在)  
(ア) 農業関係被害 被害額：2,337千円  
東北町 : ながいも洗浄選別施設 被害面積：6m<sup>2</sup>（倉庫小破）  
          : にんにく（ほ場陥没に伴う腐敗等）：被害面積：0.03ha  
六ヶ所村：農業倉庫周辺擁壁 被害面積：37.5m<sup>2</sup>（土間・擁壁全損）
- (イ) 畜産関係被害 被害額：10,457千円  
東北町 : 堆肥施設屋根破損  
          : 搾乳施設ボイラー故障 2件  
          : 牛舎パネル 天井落下 被害面積：16m<sup>2</sup>  
          : 牛乳冷却処理所(冷却装置の配管屈折、水漏れ、施設内壁破損等)  
          : 牛舎基礎コンクリートのひび割れ  
          : 鶏舎・堆肥舎コンクリートのひび割れ、堆肥舎内機械ケーブルの破損

- (ウ) 農村整備関係 被害額：45,600千円  
 三沢市：マンホール浮上 2か所  
 東北町：私道に50cm程度の段差（亀裂）等 2か所  
     農道にひび割れ 2か所  
     揚水機ポンプ基礎ひび割れ 1か所  
 おいらせ町：ため池堤体法面の破損 1か所  
 六ヶ所村：処理施設敷地内地盤沈下 1か所

ウ 令和7年12月大雪による被害(令和8年3月16日現在(概算))

- 畜産関係 被害額：19,706千円  
 東北町：飼料保管庫 被害面積：450㎡  
 六ヶ所村：パイプハウス  
     パイプハウス被覆資材 被害面積：100㎡

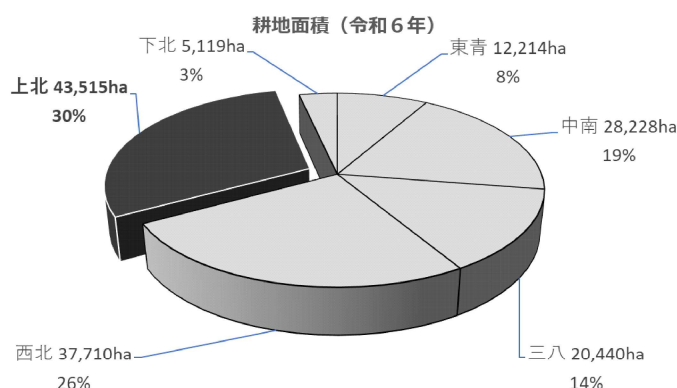
## VI 附表

## 1 地域農業の概要

### (1) 耕地面積

耕地面積は43,515haと、県全体(147,300ha)の約3割を占め、県内で最も多い地域である。

その内訳は、水田21,392ha、畑22,112haとなっている。



(単位：ha)

市町村	耕地面積	田		畑		担い手への集積率 (%)
		面積	割合 (%)	面積	割合 (%)	
十和田市	12,100	8,280	68.4%	3,830	31.7%	62.4%
三沢市	3,610	1,710	49.4%	1,900	52.6%	60.7%
野辺地町	655	193	29.5%	462	70.5%	35.3%
七戸町	6,830	3,800	55.6%	3,020	44.2%	49.9%
六戸町	3,380	1,930	57.1%	1,450	42.9%	63.9%
横浜町	2,120	350	16.5%	1,770	83.5%	52.4%
東北町	7,980	3,050	38.2%	4,920	61.7%	57.9%
六ヶ所村	3,640	509	14.0%	3,130	86.0%	50.9%
おいらせ町	3,200	1,570	49.1%	1,630	49.7%	61.5%
上北計	43,515	21,392	49.2%	22,112	50.8%	57.7%
県計	147,300	77,500	52.6%	69,800	47.4%	60.0%

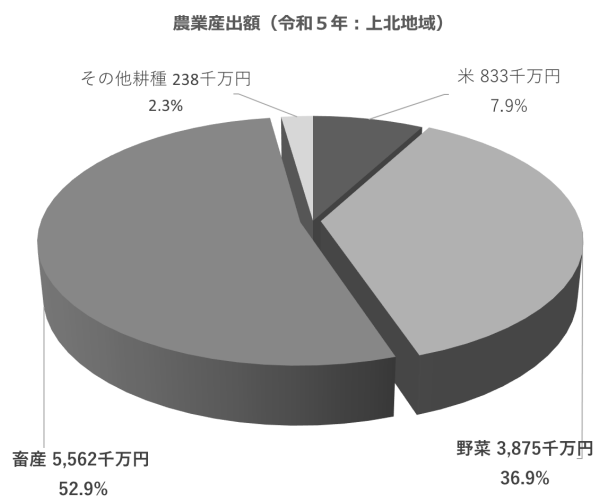
[耕地面積は令和6年作物統計、担い手への集積率は東北農政局調べ(令和7年3月)]

### (2) 農業産出額

令和5年の上北地域の農業産出額は1,050億円で県全体の30.4%を占め、地域別では県内1位となっている。

特に、野菜は県全体の56.4%、畜産も県全体の51.4%と約5割を占めている。

地域全体では、耕種と畜産が半々の構成となっている。



## Ⅵ 付表

### 上北の市町村別農業産出額（令和5年）

（単位：千万円、％）

市町村	耕 種				畜 産						合計
	米	野菜	その他	計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他	計	
十和田市	376	788	39	1,203	372	28	1,262	71	0	1,733	2,936
三 沢 市	18	608	25	651	33	25	519	339	44	960	1,611
野辺地町	2	22	3	27	-	185	-	-	0	185	212
七 戸 町	167	236	33	436	620	12	38	-	4	674	1,110
六 戸 町	77	509	10	596	4	5	X	0	16	25	621
横 浜 町	16	32	59	107	33	41	X	1,027	14	1,120	1,227
東 北 町	127	876	34	1037	80	189	35	133	0	437	1,474
六ヶ所村	4	301	6	311	107	236	X	0	1	344	655
おいらせ町	46	503	29	578	15	12	57	-	1	85	663
上北計	833	3,875	238	4,946	1,264	733	1,911	1,570	80	5,558	10,504
県	5,113	6,870	11,773	23,756	1,659	916	2,583	5,075	594	10,827	34,583
上北/県	16.3%	56.4%	2.0%	20.8%	76.2%	80.0%	74.0%	30.9%	13.5%	51.3%	30.4%

注)「0」：単位に満たないもの（例：0.4千万円→0千万円）

「-」：事実不詳または調査を欠くもの

「X」：個人または法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

[令和5年市町村別農業産出額（推計）]

### （3）農家数

上北地域の総農家数は、令和2年には6,630戸で県全体の18.2%を占めている。このうち販売農家は5,177戸で、平成27年対比77.2%と減少している。

農業就業人口は、65歳以上の割合が49.1%と高齢化が進んでいる。

上北の市町村別農家戸数等の推移（単位：戸、％）

市町村	総農家数	販売農家	自給的農家
十和田市	2,307	1,865	442
三 沢 市	436	374	62
野辺地町	120	51	69
七 戸 町	1,008	769	239
六 戸 町	746	598	148
横 浜 町	228	119	109
東 北 町	1,021	857	164
六ヶ所村	217	161	56
おいらせ町	547	383	164
上北計	6,630	5,177	1,453
県	36,465	28,062	8,403
上北/県	18.2%	18.4%	17.3%

[2020 農林業センサス]

上北の市町村別基幹的農業従事者人口の年齢構成 (単位：人、%)

市町村	15～29歳	30～59歳	60歳以上	うち65歳以上	農業就業人口計	65歳以上の比率
十和田市	37	523	2,377	2,072	2,937	70.5
三沢市	16	201	470	387	687	56.3
野辺地町	2	13	57	48	72	66.7
七戸町	11	217	943	823	1,171	70.3
六戸町	8	167	718	600	893	67.2
横浜町	5	50	142	117	197	59.4
東北町	28	386	1,126	910	1,540	59.1
六ヶ所村	6	102	202	147	310	47.4
おいらせ町	12	183	474	390	669	58.3
上北計	125	1,842	6,509	5,494	8,476	49.1
県	725	11,921	35,437	29,326	48,083	61.0
上北/県	17.2	15.5	18.4	18.7	17.6	18.7

※基幹的農業者とは、15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している者  
[2020 農林業センサス]

#### (4) 将来人口の推計値

多くの市町村で、2025年から2030年の間に人口が減少すると推計されている。

上北の市町村別人口の推計値 (単位：人、%)

市区町村	2020年の 総人口	2020年の総人口を100としたときの指数						2030年の 総人口	75歳以上 の構 成比
		2025	2030	2035	2040	2045	2050		
十和田市	60,378	94.7	89.0	83.1	77.0	70.7	64.5	53,728	24.2
三沢市	39,152	95.8	91.2	86.6	81.7	76.5	71.1	35,706	18.2
野辺地町	12,374	88.7	80.5	72.3	64.5	57.0	49.7	9,960	27.7
七戸町	14,556	90.9	82.0	72.4	64.9	56.9	49.5	11,931	29.6
六戸町	10,447	96.3	93.2	89.4	85.6	81.6	77.5	9,740	22.0
横浜町	4,229	92.4	84.6	77.0	69.8	62.5	55.6	3,579	28.6
東北町	16,428	92.1	84.4	76.9	65.9	62.3	55.5	13,872	27.2
六ヶ所村	10,367	95.1	90.2	85.0	79.2	73.0	66.7	9,349	16.9
おいらせ町	24,273	98.4	95.9	92.5	88.4	83.8	78.8	23,271	18.5
上北計	192,204	94.6	89.0	83.3	77.5	71.4	65.4	171,136	22.6
県	1,237,984	93.5	87.0	80.4	73.9	67.3	61.0	1,076,878	23.4

[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023）年推計）」]

(5) 担い手

ア 認定農業者

管内における令和7年3月末現在の認定農業者数は、1,884経営体となっている。

イ 新規就農者と4Hクラブ員

令和6年度の新規就農者は55人となっている。

4Hクラブには令和7年度に42人の農業青年が所属し、プロジェクト活動や交流会等の活動を行っている。

ウ 農業経営士、青年農業士、ViC・ウーマン

令和7年度は農業経営士40人、青年農業士39人、ViC・ウーマン36人の計115人が、農業リーダーとして地域農業の振興に活躍している。

上北の農業リーダー数 (単位：人)

市町村名	農業経営士		青年農業士	小計	ViC・ウーマン	合計
	名誉	現役				
十和田市	18	4	6	28	6	34
三沢市	5	3	3	11	1	12
野辺地町	2	1	0	3	2	5
七戸町	3	4	2	9	4	13
六戸町	10	8	2	20	4	24
横浜町	0	1	1	2	5	7
東北町	7	10	15	32	8	40
六ヶ所村	4	2	5	11	2	13
おいらせ町	2	7	5	14	4	18
上北計	51	40	39	130	36	166

(6) 管内の主要作物・野菜作付面積・主要家畜飼養頭羽数

ア 主要作物作付面積 (令和7年産)

(単位：ha)

市町村名	水稻	主食用			大豆	麦	そば	なたね	葉たばこ
		飼料用	その他	その他					
十和田市	4,355	3,616	725	14	227	107	208	2	4.5
三沢市	396	275	116	5	-	-	-	-	-
野辺地町	13	13	-	-	-	-	9	-	-
七戸町	2,305	1,528	574	203	203	6	31	-	6.5
六戸町	1,003	744	254	5	19	-	53	-	8.2
横浜町	147	145	2	-	-	1	-	-	-
東北町	1,461	1,246	139	76	28	-	14	-	7.2
六ヶ所村	49	33	16	-	-	-	1	-	-
おいらせ町	520	469	51	-	-	1	-	-	0.6
上北計	10,249	8,069	1,877	303	477	115	316	2	27.0

※「飼料用」は飼料用米、WCS用稲、「その他」は、加工用米、米粉用米、輸出用米、備蓄米

[令和7年産の水田における地域農業再生協議会別の作付状況について (農林水産省)]

※葉たばこ：令和7年 青森県たばこ耕作組合調べ

## イ 主要野菜作付面積（令和6年産）

（単位：ha）

市町村	ながいも	にんにく	ごぼう	だいこん	にんじん	キャベツ	ねぎ	トマト	ばれいしょ	こかぶ
十和田市	198	340	277	50	0	0	74	1	0	0
三沢市	131	98	224	32	121	5	2	0	24	0
野辺町	6	0	0	0	0	0	0	0	0	35
七戸町	84	290	10	2	0	3	4	11	0	2
六戸町	53	91	125	38	45	1	0	0	1	0
横浜町	22	2	9	0	0	0	0	0	108	0
東北町	288	127	135	105	37	17	2	1	47	27
六ヶ所村	140	5	185	150	7	20	5	0	4	0
おいらせ町	47	21	97	277	185	71	0	0	2	0
上北計	969	974	1,062	654	395	117	87	13	186	64

※合計値は小数点以下の四捨五入により一致しない

[令和7年度 上北農林水産事務所調べ]

## ウ 主要家畜飼養頭羽数（令和7年2月1日現在）

（単位：頭、千羽）

種目 市町村名	乳用牛（雌）		肉用牛		豚	採卵鶏	ブロイラー
	うち 2歳以上	うち 繁殖雌					
上北計	10,081	6,742	34,795	7,401	223,530	2,130	4,092
県計	12,037	8,068	52,547	12,428	359,945	7,180	8,474
上北/県	83.8%	83.6%	66.2%	59.6%	62.1%	29.7%	48.3%

[令和7年 県畜産課調べ]

## 2 令和7年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧

### (1) 水稻

#### ア 生育観測ほ

市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当	備 考
十和田市	県生育観測ほ	晴 山	まっしぐら	米田 一典	
	地区生育観測ほ	高清水	まっしぐら	須田山 純一	
		藤 坂	まっしぐら他	十和田アグリ(株)	奨決
七戸町	県生育観測ほ	道ノ上	まっしぐら	天間 正大	
	地区生育観測ほ	向 田	まっしぐら	山田 千一郎	
		蒼 前	はれわたり	天間 幸二郎	
東北町	県生育観測ほ	上 野	まっしぐら	蛭名 勝四郎	
	地区生育観測ほ	内蛭沢	まっしぐら	蛭沢 渉	
		才市田	はれわたり	米内山 寧夫	
野辺地町	地区生育観測ほ	川 目	まっしぐら	荒谷 清隆	
		川 目	あかりもち	荒谷 清隆	
横浜町	地区生育観測ほ	本 町	まっしぐら	杉山 和彦	
三沢市	地区生育観測ほ	浜三沢	まっしぐら	種市 浩継	
六戸町	地区生育観測ほ	上吉田	まっしぐら	赤石 義周	奨決
		下吉田	はれわたり	赤石 義周	
おいらせ町	県生育観測ほ	本 村	まっしぐら	田中 正幸	
	地区生育観測ほ	日ヶ久保	まっしぐら	沼端 務	
		日々久保	はれわたり	沼端 務	
		間 木	はれわたり	袴田 喜代美	
六ヶ所村	地区生育観測ほ	平 沼	まっしぐら	田中 健	

#### イ 農薬・肥料展示ほ

市町村名	資 材 名	地 点	内 容 等	担 当
七戸町	(仮称)SCU入り水稻一発468	荒 屋	肥 料	作田 安喜男
六戸町	ラオウジャンボ	下吉田	除草剤	赤石 義周

#### ウ その他(事業等)

市町村名	展 示 区 分	地 点	担 当
十和田市	「はれわたり」指導拠点ほ	高清水	須田山 純一
	「ゆたかまる」展示ほ	赤 沼	(農)赤沼営農組合
七戸町	水稻多収有望系統現地実証ほ	道ノ上	天間 正大
三沢市	飼料用品種展示ほ	庭 構	(農)フラップあぐり北三沢
おいらせ町	水稻生育障害調査ほ	日ヶ久保	—

## (2) 畑作

## ア 生育観測ほ等

品目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
小麦	十和田市	県生育観測ほ	相 坂	ネバリゴシ	竹ヶ原 善昭
		地区生育観測ほ	赤 沼	ネバリゴシ	(農)赤沼営農組合
			相 坂	ネバリゴシ	十和田アグリ(株)
大豆	十和田市	県生育観測ほ	赤 沼	おおすず	下佐 春美
	七戸町	地区生育観測ほ	舟場向川久保	おおすず	(有)みらい天間林
そば	十和田市	品種展示ほ	奥 瀬	にじゆたか	(農)中矢営農組合
	東北町	品種展示ほ	上板橋	にじゆたか	(有)みらい天間林
	野辺地町	品種展示ほ	明戸鳥井平	にじゆたか	もちの里づくり協議会

Ⅵ 付表

(3) 野菜

ア 生育観測ほ

品目	市町村名	区分	地点	品種名	担当
にんにく	十和田市	地区生育観測ほ	沢田	白玉王	戸舘 快之
	七戸町	県生育観測ほ	榎林	白玉王	高田 幸三
		地区生育観測ほ	沼ノ沢	白玉王	山田 正
	東北町	地区生育観測ほ	長久保	白玉王	鎌本 幸男
		地区生育観測ほ	大浦川内	白玉王	沼尾 賢一
六戸町	地区生育観測ほ	犬落瀬	白玉王	山本 初夫	
ながいも	三沢市	地区生育観測ほ	下野	園試系6	檜山 清勝
	七戸町	地区生育観測ほ	夏焼	園試系6	寺澤 和夫
	東北町	県生育観測ほ	滝沢平	庄司系	岡山 雄哉
		地区生育観測ほ	甲地	庄司系	甲地 俊仁
			上野	園試系6	蛭名 精
野田頭	トロフィー	野田頭俊一			
六ヶ所村	地区生育観測ほ	倉内	庄司系	石久保農産	
やまのいも	六ヶ所村	地区生育観測ほ	鷹架	ネバリスター	ふじや農産
露地ねぎ	十和田市	県生育観測ほ	洞内	夏扇パワー	中野 智仁
春だいこん	おいらせ町	県生育観測ほ	内山平	春の星	吉田 良紀
秋冬だいこん	東北町	県生育観測ほ	乙部	S-139	乙部 大作
ばれいしょ	三沢市	県生育観測ほ	庭構	メーカーイン	水沢 勝広
春夏にんじん	六戸町	県生育観測ほ	上吉田	紅吉	山内松次郎
夏にんじん	東北町	地区生育観測ほ	大浦	紅福	小笠原佳大
ごぼう	三沢市	県生育観測ほ	猫又	柳川理想	駒沢 慎
	東北町	地区生育観測ほ	往来ノ上	柳川理想	新堂 卓美
トマト	七戸町	地区生育観測ほ	荒屋	りんか409	中野渡真澄美

イ 農薬・肥料展示ほ

品目	市町村名	資材名	内容等	地点	担当
にんじん	六戸町	(仮称)亜リン酸 入りにんじん専用 -改	肥料	犬落瀬	佐藤 栄一
キャベツ	おいらせ町	フィールドマスト フレアブル	殺虫剤	東下谷地	深沢 豪希

## ウ その他（事業等）

品目	市町村名	展示区分	地点	担当
にんにく	十和田市	新品種栽培 技術実証ほ	JA十和田おいらせ	相坂 竹島 大志
	東北町		JAゆうき青森	水喰 甲地 武仁
	三沢市		JAおいらせ	庭構 小向 誠広
	十和田市	新品種栽培 現地試作ほ	JA十和田おいらせ	沢田 戸舘 快之
	東北町			虫神 大久保 利美
	七戸町		JAゆうき青森	中岫 中野 静毅
				鉢森平 高田 幸三
				後平 小又 政幸
	六戸町		JAおいらせ	折茂 苫米地 勝一
たまねぎ	東北町	持続可能な中部上北スタイル 水田農業推進事業実証ほ	間手場	農事組合法人 青森マエダライス
ながいも	三沢市	種苗増殖方法	JAおいらせ	戸崎 赤沼 弦
	東北町	改善実証ほ	JAゆうき青森	外蛭沢 向井 徳敦
	三沢市	新品種栽培 技術試験展示 ほ	JAおいらせ	谷地頭 織笠 義信
	六戸町			犬落瀬 蹴場 克幸
	十和田市		JA十和田おいらせ	高清水 竹島 大志
	七戸町			太田 寺澤 和夫
	東北町		JAゆうき青森	外蛭沢 向井 徳敦
				滝沢平 甲地 優志
こかぶ	野辺地町	品種比較展示ほ	明戸鳥井平	高松 誠
			千草橋	古林 睦弘

## (4) 果樹

品目	市町村名	区分	地点	品種名	担当
りんご	十和田市	地区生育観測ほ	米田	ふじ	大竹 光雄
ブルーベリー	十和田市	地区生育観測ほ	藤島	アーリーブルー ほか7品種	国分 弘志

## (5) 飼料作物

品目	市町村名	区分	地点	品種名	担当
牧草	十和田市	県生育観測ほ	米田	オーチャードグラス	布施 和昭
飼料用 とうもろこし	東北町	県生育観測ほ	北栄	スノーデント110日	(農)北栄トラク ター利用組合

## 3 上北地域の農業士会

## (1) 農業士会の状況

令和7年4月1日現在

団体名	会長	人数			
		名誉 農業経営士	農業 経営士	青年 農業士	計
十和田地区農業士会	天間 正大	21	8	8	37
三沢地区農業士会	合川 聡彦	20	21	14	55
野辺地地区農業士会	乙部 英夫	10	11	17	38

## (2) 各地区市町村別人数内訳

令和7年4月1日現在

地区名	市町村名	名誉 農業経営士	農業経営士	青年農業士	計
十和田地区	十和田市	18	4	6	28
	七戸町	3	4	2	9
三沢地区	三沢市	5	3	3	11
	六戸町	10	8	2	20
	東北町(旧上北町)	3	3	4	10
	おいらせ町	2	7	5	14
野辺地地区	野辺地町	2	1	0	3
	東北町(旧東北町)	4	7	11	22
	横浜町	0	1	1	2
	六ヶ所村	4	2	5	11
合計		51	40	39	130

## 4 かみきたVIC・ウーマンの会

令和7年4月1日現在

代 表 者	構 成 員				
	構成員数	市 町 村 別 内 訳			
中村 修子 (七戸町)	36名	十和田市	6名	横浜町	5名
		三沢市	1名	東北町	8名
		野辺地町	2名	六ヶ所村	2名
		七戸町	4名	おいらせ町	4名
		六戸町	4名		

## 5 かみきた農と暮らしの研究会

令和7年4月1日現在

代 表 者	構 成 員			
	構成員数	市 町 村 別 内 訳		
江刺家 りつ子 (東北町)	11グループ 39名	十和田市	4グループ	13名
		六戸町	2グループ	3名
		東北町	3グループ	16名
		おいらせ町	2グループ	7名

## 6 とわだグリーン・ツーリズム研究会

令和7年4月1日現在

役 職	氏 名	市 町 村 名
会 長	天間 正大	七戸町
副会長	久野 礼子	十和田市
会計・書記	中屋敷 ひとみ	十和田市
監 事	寺下 良次	十和田市
	中野渡 利彦	十和田市
	竹ヶ原 祐子	十和田市
	中野 とし子	十和田市
	日野口 敏章	十和田市

## 7 農村青少年クラブ

令和7年4月1日現在

組織名	代表者 (居住地)	構成員数	市町村別内訳
上十地区4Hクラブ 連絡協議会	高田 涼平 (東北町)	19名	東北町16名 六ヶ所村3名
三沢地区農村青少年クラブ 連絡協議会	法霊崎 誠也 (おいらせ町)	12名	三沢市5名 おいらせ町7名
十和田七戸4Hクラブ	佐々木 基 (十和田市)	9名	十和田市4名 七戸町5名

## 8 直売運営団体

令和7年4月1日現在

市町村名	施設名	団体・代表者名	備考
十和田市	道の駅とわだ「とわだぴあ」	株式会社産直とわだ 代表取締役社長 豊川 聡士	○
	JA十和田おいらせ ファーマーズ・マーケット かだあへれ	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	道の駅奥入瀬 観光物産館 「四季彩館」	十和田湖ふるさと活性化友の会 会長 高瀬 三千枝	
七戸町	道の駅しちのへ「産直七彩館」	(株)七戸物産協会 代表取締役 盛田 隆造	
三沢市	みさわビードル広場定期市	みさわ味彩の会 会長 駒沢 洋子	
	道の駅みさわ「くれ馬ぱ〜く」	道の駅みさわ産直友の会 会長 織笠 悦雄	
	みさわやさい市場	三沢市近郊やさい生産組合 組合長 浦田 秀人	
	三沢市漁協直売所	三沢市漁協協同組合 代表理事組合長 熊野 稔	
	(株)ゆめグリーン Aコープ三沢店	Aコープ三沢店 店長代理 長谷部 さゆり	
六戸町	道の駅ろくのへ 「メイプルふれあいセンター」	株式会社産直ろくのへの郷 代表取締役社長 小向 保廣	
おいらせ町	おいらせ町 味祭館	百石ふるさとの味研究会 会長 橋本 サト	○
	おはよう広場	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	観光農園 アグリの里おいらせ	株式会社アグリの里おいらせ 代表取締役 苔米地 義之	○
	ファーマーズマルシェ hitotsubu	企業組合ノエル 代表理事 古舘 留美子	
東北町	道の駅おがわら湖「湖遊館」	道の駅おがわら湖産直友の会 会長 竹内 勝子	○
野辺地町	JAゆうき青森野菜直売所 あぐりハウス「すずな」	JAゆうき青森野辺地営農センター 野辺地野菜販売協議会 会長 田村敬一	
横浜町	道の駅よこはま 「菜の花プラザ」	なたねの会 会長 澤谷 久美子	○
六ヶ所村	六ヶ所村特産品販売所 六旬館	一般社団法人 六ヶ所村観光協会 会長 及川 次夫	

※ 備考欄の○印は、「かみきた産直ネットワーク」加入組織

令和7年度普及指導活動のまとめ

令和8年3月18日発行

編集・発行／ 青森県上北農林水産事務所  
青森県十和田市西十二番町20-12  
(県十和田合同庁舎内)  
電 話 (0176)22-8111(代表)  
(0176)23-4281(直通)

青 森 新 時 代  
「農 林 水 産 力」  
強 化 パ ッ ケ ー ジ

